

都留文科大学

同窓会報

第37号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 鈴木 守

山梨県都留市田原3-8-1

☎0554-43-4341



三つ峠から望む富士山

同窓會
都留文科大学

世代を超えた、 つながりの文大!!!

都留文科大学同窓会会長

加藤 一雄



私は、2017年8月の同窓会総会において、本学同窓会の第15代会長として推薦・承認をいただき、2年目を迎えました。伝統ある都留文科大学同窓会のさらなる発展と活性化に向けて邁進していく所存です。皆様方のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

今年度、大学は学部編成により「学校教育学科」「地域社会学科」を創設し、従来の免許に加えて数学や理科の免許も取得できるようになりました。同窓会におきましては、8月25日に、これまで同窓会がなかった東北支部の青森県に初めて同窓会が設立されました。東北ブロック理事の鎌田清様のご尽力のおかげで実現することができ、福田学長と共に設立総会に出席をさせていただきました。これで同窓会支部は全国40都道府県となり、とても嬉しく思います。さらに関東圏で唯一同窓会のない栃木県でも中心となる方が大学を訪れて、設立への準備を進めてくださっています。それぞれの支部では会員相互の親睦と母校の発展へ寄与する活動が行われています。

都留文科大学卒業生は現在34,000人を超えており、様々な分野、職域で活躍されています。多くの先輩たちで構成する同窓会は、都留文科大学の応援団でも

あります。例年、同窓会本部や都道府県各支部において、教員を目指す学生に教採対策を実施し、今年度は、昨年度を上回る合格者がでました。また、西日本の豪雨災害で被災した岡山県・広島県・愛媛県支部への支援活動を行いました。

このような活動の他にも同窓会のもう一つの目的として「会員相互の親睦」があります。私は、今年度、群馬県、青森県、長野県、神奈川県と同窓会支部総会に出席させていただきました。そこで感じたことは、卒業した先輩方の都留文科大学や都留市への思いの強さです。サークルやゼミの先生や仲間、下宿、アルバイト経験など、今もお母校都留文科大学をこよなく愛し、第二の故郷をなつかしむ先輩方の熱い思いに触れ、私もこの上なく嬉しく思いました。親睦会の最後には「花のかげ」や「武田節」を声高らかに歌いました。特に、神奈川県支部では、今年度教員採用試験に受かった6名の学生が参加し、大歓迎を受けました。同窓会活動を若い人に繋げる活動の大切さを痛感しました。

全国40支部では、各都道府県の支部長を中心に母校愛により活動を展開しております。ぜひ、各支部の同窓会の活動に参加し、語り合い、学び合い、支え合い、親睦を深めることにより、絆を深めていただきたいと思います。今後、都留文科大学同窓会が全国全地区に設立されることを強く願っています。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役 職 名			氏 名	卒 科	役 職 名			氏 名	卒 科	役 職 名			氏 名	卒 科	
名 譽 会 長	副 会 長	福田誠治	学長		理事 (支部長)	福島県支部長	大竹豊紀	S39初	理事 (支部長)	奈良県支部長	岡田善英	S45初	理事	笠井正宏	H22院臨床教育
		加藤一雄	S53初	茨城県支部長		長岡省一	S55英	和歌山県支部長		谷口博保	S51初	廣瀬文武			S54英
		桐井幸雄	S32初	群馬県支部長		齋木雄造	S52国	鳥取県支部長		古都英幸	S50英	岩間好久			S55初
		杉中康平	S59初	埼玉県支部長		西 敬	S56初	島根県支部長		小藤 貢	S44初	内藤郁夫			S48国
		柏木精一	S57初	千葉県支部長		川名和則	S51英	岡山県支部長		原田直樹	S45国	若林四郎			S31商
		鈴木 守	S55初	東京都支部長		松本多加志	S44初	広島県支部長		小谷桂司	S44初	窪田芳博			S49初
庶務会計	小幡哲明	S56国	神奈川県支部長	松下登志男	S41国	徳島県支部長	小倉健司	S53英	顧問	問	奥脇隆樹	S45初			
	河端雄一	S63初	新潟県支部長	池原栄一	S50初	愛媛県支部長	谷川忠孝	S42初			小宮山 尚	S58初			
	鈴木 卓	大学課程修了	富山県支部長	高木要志男	S51初	高知県支部長	前田志郎	S48初			奥秋順作	S31初			
事務局次長	渡辺正司	S63初	石川県支部長	西田良治	S49国	長崎県支部長	平山繁壽	S44初	顧問	問	志村武男	S31商			
	浜欠亮吉	S39国	福井県支部長	吉岡恒雄	S54初	熊本県支部長	永田好文	S47初			後藤 敬	S33商			
監 事	外川正純	S46英	山梨県支部長	千野文雄	S48英	宮崎県支部長	取附義弘	S51初			佐藤唯一	S32初			
	原田裕太	H 7初	長野県支部長	小林久通	S56初	鹿児島県支部長	本田武久	S43国			佐藤英雄	S38国			
	奥脇美穂	H 1初	岐阜県支部長	清水久司	S53国	沖縄県支部長	比嘉正夫	S53英			輿石 東	S32初			
	淡野香百合	S39初	静岡県支部長	臼井 泰	S46国	理事	北海道	加藤佳栄			S55英	山縣永良	S39国		
相川洋子	S52英	愛知県支部長	橋本壽氏	S57初	北海道		鎌田 清	S47初	勝俣武男	S41初					
理事 (支部長)	北田則章	S56英	三重県支部長	田畑繁行	S53初		兵庫県	赤穂榮一	S40英	永田清一	S46国				
	遠藤ゆみ子	S63初	滋賀県支部長	松嶋孝雄	S46初		山 梨 県	石井正己	S51初	小林孝次	S46英				
	小山田厚	S54国	京都府支部長	枅谷雄三	S44初	一瀬英治		S46国	千野文雄	S48英					
	伊藤常治	S58英	大阪府支部長	藤田明彦	S57初	笹本忠彦		S62英	亀田孝夫	S51英					
	白林和夫	S60初	兵庫県支部長	渋谷訓生	S41英	小山田拓也		H 6初	原 喜雄	S53初					

平成31年2月1日現在

2年生全員北欧留学 という仕掛け

都留文科大学学長

福田 誠 治



1. 目標を持って大学生活を生きる

大学に入学するとだんだんとやる気がなくなるというのが、世間の相場である。国際教育学科では、2年生の後半に北欧留学をすることにした。入学後、どんどん目標が高まっていく仕組みをつくったわけである。留学資金を貯めるアルバイトとか、全国各地の奨学金を探す努力も学生たちに出てきた。こうして、自分の将来のために学ぶ、職業を描きながら実力を付けるという自覚が付き始めている。また、同じ目標ができると、励まし合って生活したり学んだりするようである。国際教育学科は、1・2年生は大学借り上げの下宿で過ごすことになっているので、下宿人同士で授業準備など助け合うようになっている。

2. 学びの姿勢が変わる

国際バカロレアとも関連して、探究型の学び、クリティカル・シンキング、振り返りなどのアクティブ・ラーニングが推奨されている。グループに分かれて意見を出し合い、報告・提案し、ディスカッションするという学びの態度は国際教育学科では1年生のうちに身につけるようになっている。

日本の若者が受け身の姿勢ばかりでは日本に新しい産業は起きない。そうすると、赤字を抱えたまま、日

本の産業も、日本の地方自治体も、皆倒産することになる。ここは一つ、学校の教師が考え方を変え、テストの点とか入試の合格という目標を捨て、学び続ける力を付けて生涯学習社会に生きていけるサバイバルな子どもを育てる他はない。

知識は、知りたいと思う者が調べ、まとめ、それが本当かどうかを他人と話し合ったり、本やネットで確認したりして、「なるほどなあ」と納得したらそれはその人の知識と言える。それをテストで測ろうとすると、上辺だけのものになり、深いところは見えないまま終わる。

3. 英語のとらえ方が変わる

少なくとも6年以上勉強し、テストの点も悪くはなかったのに、一向に使えないのが英語である。1年次末期の2月から翌年度の6月にかけて、国際教育学科の学生は自分の留学したい大学に目星を付け、授業や宿泊施設・生活などを調べ、学科で指定された後は、大学への申込、個々の授業の受講申込などを済ませ、授業料や寮費などを送金し、東京にある在日大使館に出向いていって30分ほどの面接の後にパスすれば許可書が送られてきて、それを大学に送って滞在許可書を取得する、これを全部英語でやり切る。トラブルがあれば、メールや電話で交渉する。学生たちは、自分の将来のために、まさに生きる英語を使いながら学んでいった。それでも、現地でさらに苦労していることと思う。

北欧との交換留学では、EUの方針で英語のテストの点数は問題にらなかった。ここが、米英との違いである。使ってみて通じたらそれが英語、ということ。

平成30年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県 名	会 員 数	No	県 名	会 員 数	No	県 名	会 員 数	No	県 名	会 員 数
1	北海道	612	13	東京都	1293	25	滋賀県	105	37	香川県	152
2	青森県	249	14	神奈川県	1241	26	京都府	243	38	愛媛県	306
3	岩手県	591	15	新潟県	655	27	大阪府	464	39	高知県	85
4	宮城県	567	16	富山県	657	28	兵庫県	830	40	福岡県	222
5	秋田県	256	17	石川県	615	29	奈良県	88	41	佐賀県	82
6	山形県	359	18	福井県	518	30	和歌山県	196	42	長崎県	204
7	福島県	754	19	山梨県	3878	31	鳥取県	163	43	熊本県	191
8	茨城県	469	20	長野県	1204	32	島根県	228	44	大分県	114
9	栃木県	481	21	岐阜県	542	33	岡山県	394	45	宮崎県	158
10	群馬県	374	22	静岡県	1578	34	広島県	480	46	鹿児島県	345
11	埼玉県	554	23	愛知県	1216	35	山口県	161	47	沖縄県	226
12	千葉県	572	24	三重県	385	36	徳島県	424	48	外国・不明等	8,960
										合 計	34,441

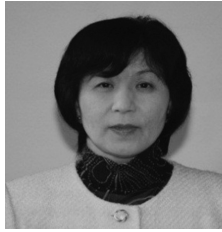
支部設立済都道府県

平成30年4月1日現在

「都留文科大学とともに」

都留文科大学退官教授
学校教育学科

添田 慶子



大学の合格発表後、私が入学を迷っていた所、担任の先生に大学へ直接訪問して研究などについて話をきいてきたら良いと薦められるままに、高校生の私は勇気を振り絞って大学を訪ねました。17歳の私は、大学の教授の学問への熱い情熱を直接伺い入学を決心し、新しいことに挑戦してみようと思ったのでした。

お茶の水女子大学を卒業し、修士論文にハンガリーの音楽と舞踊をテーマに選んだ私はその後、ハンガリーの科学アカデミーへの研究留学をいたしました。この時も指導教官の一人に、現地に行かないと真実はわからないからと背中を押されました。

一人暮らしへの憧れもあって、ハンガリーへ行ったのですが、大学1年時にイランで開催された国際会議に学生

メンバーとして選ばれ、その時に知り合ったオーストリアのメンバーの一人と文通をしていて、その彼女が、当時隣国オーストリアのウィーン大学の医学部の学生でウィーン在住でした。それでハンガリー留学中にウィーンや、郊外の彼女の実家を訪問し、ご家族とも会う機会をもつことができました。

父親が開業医であり、深窓の令嬢という魅力的な人でしたが、母の姿を見ていたら専業主婦として十分幸せだけれども、やはり女性も何か仕事をもっていた方が良いと思い、自分も医者になろうと思ったと話してくれました。その時まで私も自分の職業については漠然とした考えしかなかったのですが、その時の彼女の言葉にとっても強く惹かれました。

留学を終えて母校の助手を経た後、1984年4月には本学に専任講師として着任いたしました。

介護体験委員会の委員長の時には、支援学校・施設等での実習で本学の学生は全般的には評判は悪くないのですが、いろいろあって学科長、事務の方と一緒にお詫びに行ったことも何度かありました。

各地で本学の卒業生の活躍を耳にしたり、親族に本学の卒業生がいるとお聞きすることも多く喜んでおります。

今後一層の卒業生の活躍に期待しております。

地域の皆さん、学生と共に走り抜けた12年間

都留文科大学退官教授
地域社会学科

高田 研



2007年本学に赴任し、12年間環境教育を担当いたしました。社会学科が現代社会と環境・コミュニティ創造の2専攻に分かれた初年度です。「都留の自然や生活というフィールドからできる限り直接学ばせて欲しい」というミッションを今泉吉晴先生からいただきました。

ちょうど文科省の環境GP事業が認可された年で、学生たちと「フィールドミュージアムカフェ」という民家を会場にし、それぞれの地域の環境について学生と住民が飯を食べながら語り合うというイベントをいたしました。この事業を通してたくさんの方々と出会いました。その後、2010年には市からの依頼で市民と学生で「エコハウス」のデザインワークショップを、2013年には国民文化祭での「里地里山里水フォーラム」を担当いたしました。これらは環境GPに始まった、学生が地域から学ぶ環境学習の延

長線上にあります。

2009年に始まった鹿留財産区、東桂保育園、東桂小学校、県、市と始めた市民による森づくり活動は「鹿留子どもの森」として森林環境教育のベースを作り、今年で10年目を迎えました。この空間を活用して始めた幼児の自然体験活動は、市内で自然体験活動に力を入れてきた4園の連携を生み出し、その活動を県下に広めることを目的に、本学において「幼児のための自然体験活動フォーラム」を開催し、現在は3年目の開催を準備しております。

また2011年の東日本大震災では多くの学生たちとともに釜石に幾度も入りました。現地からの依頼で田中夏子先生そして学生たちと始めた地域調査には、本学の先生有志に参加いただき、これまで5冊の報告書を刊行いたしました。その後、大学からの支援を受けて広島、熊本、岡山で次々と起こった災害被害の現場へ、学生や学科の若手教員と共に参りました。そこで学生たちは災害の現場ボランティアの経験を通して大きく成長することができました。

12年間学生たちと共に駆け抜けた環境・コミュニティ創造専攻。その最後の学生は現在2年生です。全国各地へ戻っていった卒業生の皆さんとまたお会いできる日を楽しみにしています。

大学教員としての 第一歩を踏み出して

都留文科大学退官教授
地域社会学科

玉置 敦彦



私は東京で生まれましたが、5歳で、当時は玉穂町と呼ばれていた、現在の中央市に転居しました。小学生時代の記憶は山梨各地で遊んだ思い出でいっぱいです。育ちは山梨ということになります。都留文科大学のことを、「教員養成の実績で知られる、優秀で真面目な学生が集う大学」として記憶したもの、その頃でした。

小学生の終わりに山梨を離れ、大学院まで東京で学びました。研究者として「生まれた」のは東京ということになりますが、専任教員としてののはじめての赴任は、都留文科大学でした。専任の大学教員としての「育ち」も、また山梨ということになります。再び山梨を離れ、東京に戻ることになりましたが、都留文科大学で学んだことを胸に、これからも研究と教育に携わっていきたいと思います。

地域社会学科には、ローカルからグローバルまで、多様な専門の教員が集っています。私の専門は国際政治学ですが、教育に当たって心掛けたことは、学生の皆さんに、世界のどこで、どのような生き方を選択したとしても、国際情勢と無縁ではいけないということを伝えることでした。

いま、世界は大きな変動期にあります。米国のトランプ政権と欧州のポピュリズムの台頭によって自由と民主主義を掲げた「西側」世界は揺らぎ、また米中対立、ロシアの活動の活発化、北朝鮮核武装によって、日本周辺の国際環境も急速に不安定化しています。

こうした国際情勢は我々の日常生活と深く結びついています。欧米では中露両国の影響が国内の民主主義を脅かすことが深刻な懸念として語られています。日本は幸いにそのような状況にはありません。しかし、現在の日本社会は国際情勢との深いかかわりから生まれましたし、富士急行線に乗れば、世界各地から富士山と河口湖を訪れる人々を目にすることになります。ローカルな状況はグローバルな情勢と不可分であり、グローバルな状況が揺らげばローカルな生活も無縁ではいけない。そしてその逆もまた真である、ということ、少しでも学生の皆さんにお伝えできれば望外の喜びです。

活躍する同窓生

大学で育んだ
挑戦の気持ち
サッカーそして、
絵画の世界に

佐藤 祐治

(昭和41年度 国文学科卒業)



北海道の田舎から「内地?」の大学に入学

大学のある都留市に着いたのはもう日が暮れかけていました。駅前に設けられた受付の人に案内され、これから生活する下宿に着いて、荷物をおろしたのは、家族に見送られ北海道の自宅を出てから何時間過ぎたのでしょうか。本当にほっとしたことを思い出します。

修学旅行などで見た内地（北海道では、本州の方向をナイチと呼んでいました。）にあこがれ、大学がどこにあるかも気にせずとにかく夢の東京の近くだろうということでの受験でした。車中からの様子である程度は予想していたものの朝起きて、周りを見てビルが見当たらず驚きました。同時に住んでいた北海道によく似た景色で、ほっとしたことも思い出の一つです。

大学生活は、全国的な学園闘争の時期と重なり、大学でもデモや集会があり、皆に誘われて、よく参加しました。

高校時代に少し音楽をかじったこともあり、マンドリンクラブに入りました。その後、クラブの仲間と当時大流行だったグループサウンズを真似て「フルサンズ」バカ息子たちというエレキバンドを結成、バカ息子そのまま、大いに騒ぎました。また、夏になると、富士山の8合目の山小屋に入り、下から荷物を運びあげたり、宿泊客のお世話をしたり、アルバイトに精を出しました。

ということで、今思い出してもハチャメチャで楽しい大学生活を送りました。

「サッカーにのめり込む」

現在私は、絵の世界で忙しくしていますが、ここに行くまでもう少し時間がかかります。

昭和42年に国文学科を卒業一度就職したのですが、小学校の免許を取りに聴講生にはいり、もう1年大学に戻りました。その後東京都に採用され、町田市の小学校に赴任しました。

町田市は、多摩丘陵の外れにあたり、都留市や、私が育った北海道の田舎と同じように田園が続く緑の多い地域でした。子供たちは、純朴で明るく、元気が満ち溢れていました。子供たちにもう一步刺激を与えられたら、ということで始めたサッカーは地域の方々に支えられ、父母の協力、そして子供たちの頑張りでメキメキ上手になり、「S S S

クラブ」「F C 町田」として何度も東京代表を勝ち取り、日本一にも輝きました。クラブから全日本代表の北澤豪を筆頭にJリーグに何人もの選手を送り出しました。



全日本代表で活躍した北澤選手と

「絵の世界に入り込む」

最初に担任し、サッカーをやっていた子供たちが大学生となり、クラブの指導者として、戻ってきて初めて少し時間が取れるようになりました。ここから私の絵が始まります。小さいころから絵を描くのが好きでコンクールなどで賞を取ることも多く、絵を本格的にやりたいといつも思っていました。

実家の経済事情もあり迷っていたのですが、叔父が高校にいて、教師になれば、絵を描く時間も取れる、という言葉で大学に入りました。教師にはなったのですが、サッカーの指導が面白く、なかなか時間が取れませんでした。ようやく時間を確保し、絵画の制作に取り組んだのは40代に入ってからです。

縁あって素晴らしい先生に巡り合い、基礎から学びました。その後全国公募の団体、一般社団法人「示現会」に出品し入選しました。当時都留文科大学で教鞭をとっていた、「中山龍史」先生もご一緒の会です。

日展には、1993年から出品、2度の特選の後審査員をやり、現在会員として活動中です。

昨年大学時代の騒いだ仲間の、強烈な後押しと、福田学長のご支援で新しい校舎5号館に、私の絵を寄贈することが実現できました。

寄贈を後押ししてくれた仲間や、先輩の方々とは、機会あるごとに一杯やります。話題は楽しかった大学時代のことばかりです。良い仲間にも恵まれた大学時代だったと改めて思います。



寄贈作品 「海風の村」 イタリア ヴェルナッツァ (F130号)

活躍する同窓生

母なる

都留文科大学

富士学苑中学・高等学校教頭

山口 隆之

(昭和61年度 国文学科卒業)



人生の謎解きは面白い。物語はいよいよクライマックスへ…。

35年前の4月、私は息苦しく迫る都留の山並みをただ呆然と眺めていた。入学式当日、後悔とは違う一種の恐れを感じた私は、会場の外に出ると見知らぬ街をあてもなく歩いた。自分はこのあとどうなってしまうのだろう。

恐れは、それを客観的に見るができるようになって、そこでようやく「謎」となる。自分を揺るがした地殻変動を、因果関係をもって納得しようという余裕が生まれたのである。なぜ自分は都留文科大学に入ったのか。

しかし、大学時代4年間その謎は解けずじまいだった。なぜ自分は今ここにいるのか。

すっきりしないまま卒業した私は、縁あって富士吉田市にある私立富士学苑高校に国語科教師として奉職した。禅宗の教えに基づく教育をしている学校であった。

教師生活を続ける中でも、何度か故郷の静岡に帰ろうと画策した。しかし、そのたび生来の特技である「怠惰」が発動し、その機を逃し続けた。天地人の働きによって、この世があるとしたら、私の功績は「怠惰」くらいのものである。天地が動き、人が動かなかったことによって、私の物語は結果として実に面白い道を歩むこととなる。

富士学苑高校では、特進コースAとSの立ち上げを任せられ、またのちに付属の中学校の創設に関わり教頭職を拝命した。平成30年度は久しぶりに高校に席を戻し、少子化時代の苦しい環境の中で自分なりに戦っている。来年度以降は、また違った立場で学園全体の未来の舵取りをしていかなければならないだろう。

文大が天職を与えてくれた。これだけでも文大には感謝してもしきれないわけだが、実は職業を超えた私の人生そのものを変えてしまったのもまた、文大という存在なのである。

文大時代から私を魅了する富士山。この霊山を巡る天地人の不思議な働きに巻き込まれた私の、もう一つの物語が今ここにある。

ひとことで言うなら、「裏の歴史」と出会ってしまったのである。宮下文書・出口王仁三郎・仲小路彰という順序で富士山の、いや日本の、いや世界の、いや宇宙のアナザーストーリーと出会ってしまった私の人生は、音を立てて大きく動き出すこととなった。

宮下文書と出口王仁三郎については書籍も出ているし、ネットにも情報が溢れているが、仲小路彰という人物については、ほとんど誰も知らないだろう。

この偉大なる天才歴史哲学者は、戦前、戦中、戦後を通じて、この日本という国を裏で動かしてきた。そんな人物が昭和19年から昭和59年まで山中湖畔に独身蟄居していたのである。

彼の影響を受けた人物名を思いつくままに列举する。吉田茂、佐藤栄作、松下幸之助、湯川秀樹、原節子、細野晴臣、坂本龍一、谷口雅春…政界、財界、科学界、芸術界、宗教界とあらゆる分野で彼の思想が昭和という時代を動かしていた。

ちなみに「グローバリズム」という言葉を世界で初めて使ったのは、仲小路彰という日本人であった。昭和21年のことである。

平成30年、この天才の偉業を発掘・整理していることがきっかけで、私の働く学園と都留文科大学文学部国際教育学科が包括的な提携関係を結ぶこととなった。禅宗を中心とする日本文化と北欧の文化の交流ということで、個人的にはグローバリズム（地球主義）の雛型だと感じている。ひたすら福田学長に感謝である。

仲小路彰は、東京オリンピックや大阪万博、沖縄海洋博、筑波科学博などを裏で支えた。私も彼の影響を受けてか、近年政府や省庁と連携して国際的なイベントを企画、運営することが多くなってきた。富士山麓で開催した日本ASEAN サミットやシルクサミットはその例である。

国際的なイベントと言えば、もう一つどうしても書いておきたいことがある。

私が大学4年の時、文大を舞台に「都留音楽祭」という古楽の祭典が始まった。バロック・ヴァイオリンを弾いていた私としては、まさに夢のようなことであった。

私は第1回から一昨年第31回で最終回を迎えるまで、裏方として働かせていただいた。

音楽監督である有村祐輔先生とのおつきあいは30年以上になる。都留音楽祭はその使命を終えたが、有村先生と私は新たな音楽祭の船出を計画中である。

人生の謎解きは面白い。あの時の恐れ、あの時の疑問、あの時の謎が、30年以上の歳月を経てこんなふうに解かれようとしている。

「謎」は長いこと謎のままだったが、その「謎」との長いつきあいが解答への道を示してくれた。なるほど、疑問がなければ答えもありえない。思い通りの人生には、実は答えがないのではとさえ思えてくる。

あの時息苦しく感じた都留の山並みは今、私を優しく懐き、私にこの上ない安心感を与えてくれている。都留文科大学は、私の人生の物語を紡いでくれる、母なる大学なのであった。

最後に。母に対して少し気恥ずかしいのだが、私は今なら素直に言える。ありがとう、都留文科大学よ。これから親孝行をするよ。

「喝水不忘掘井人」を念頭に置きながら

北海道支部長 北田 則章

支部設立47周年にあたる今年度の総会・懇親会は8月4日(土)に札幌市内の「ホテルライフォート札幌」で開催され、今年も同窓会本部から桐井幸雄(昭和32年初等教育)副会長のご臨席を賜り、道内各地からは16名が参集しました。

恒例となった講演会では「70歳を迎えるにあたり」と題して、森 康伸(昭和46年初等教育)様からお話をいただきました。地域に貢献する活動を通して「今を楽しんで生きる」こと、ご自身のルーツを探ることで先祖を知り現地の子孫に巡り合えたこと、ご自身の人生における様々な「ご縁に感謝」なさっていることなどを語っていただき、森様の人柄が滲み出た温かい講演会となりました。

続く総会では、前年度の業務報告、会計・監査報告、今年度の予算案・役員案などが審議され、いずれも原案どおり承認されました。

その後の懇



念願だった「青森県支部」発足!!

青森県支部長 遠藤 ゆみ子

青森県では、250人近い卒業生を輩出しているにもかかわらず、何度も支部発足に向けての話し合いがなされてきたようではありましたが、開催に向けてまでの道程は厳しく、未だ設立に至っていませんでした。このような状態を何とか打開したいと東北ブロック理事の鎌田清先生から「青森県支部設立」に向けての構想をお聞きし、昨年度からアドバイスいただきながら、なんとか2年越しで支部設立までこぎつけることができました。

平成30年8月25日(土)に、八戸市のパークホテルにて、設立総会と懇親会を開催しました。ご多忙の中、大学からは福田誠治学長、本部からは加藤一雄会長、そして、東北ブロック理事の鎌田清先生にご臨席いただきました。福田学長からは、大学の現状、今後の目指す大学像等について、加藤会長からは今後の同窓会の取り組み等についてお話を伺うことができたことは、参加者にとって学生時代を振り返ったり、各世代相互の絆を結ぶきっかけになったりすることへと繋がりました。今回の設立総会・懇親会の開催は、有意義な時間をもつことができたと共に、本支部の今後の発展に繋がる礎になったものと信じています。これでやっと青森県も大学と繋がりをもつことができた大変嬉しく思います。現在の会員は殆ど三八地区に限られていますので、今後は青森県支部が設立されたことを全县に広

親会では、桐井様から現在の同窓会や大学の近況について、続いて出席者全員が各々の在学時の思い出や同期生の近況等を熱く語りました。

今年も桐井様から「北海道の毎年開催には敬意を表します」とのお言葉をいただき、支部設立に東奔西走された初代支部長の日下顧問に感謝しつつ、毎年開催の伝統を継続すべく新執行部一同、決意を新たにしています。

次年度の総会・懇親会は、平成(元号は変わりますが)31年8月3日(土)に同じ「ホテルライフォート札幌」で開催します。女性会員の出席率向上と若い世代の発掘という課題を克服すべく、北海道支部「桂友会」のフェイスブックを立ち上げるなどの取り組みを通じて道内に在住する同窓生のネットワーク構築を進めていきます。

＜平成30年度、31年度役員＞

支部長	北田 則章(昭57英文)	
副支部長	山本 洋嗣(昭56国文)	中村厚喜夫(昭53初教)
	長坂 隼(昭37初教)	板東 真一(昭56英文)
事務局長	大花 学(昭61国文)	
事務局次長	照山 秀一(平2英文)	桜田 琢(平9社会)
会計	神野 昌代(平5国文)	
会計監査	西多 弘(昭41国文)	西山 肇(昭41初教)
事務局員	金子 歩(平16国文)	吉田 俊介(平25英文)
	赤間 圭城(平26国文)	
顧問	日下 功(昭33初教)	熊谷 勲(昭39国文)
	当銀 誠博(昭40国文)	横山 勲(昭41国文)
本部理事	加藤 佳栄(昭56英文)	北田 則章(昭57英文)

めていき、さらに会員を増やし、支部の活性化を図っていききたいと思います。

やっと歩み出すことができた「青森県支部」!! 途切れることなく活動し続け、卒業生のネットワーク構築と会員相互の親睦を深める活動を行っていきたいと考えています。

＜青森県支部役員＞

顧問	鈴木 俊雄	笹垣 昇
支部長	遠藤ゆみ子	
副支部長	中村 正寿	畠山 直榮
監事	阿部 千絵	梅村千鶴子
事務局	川村久美子	
幹事	福田 陽奈	鈴木 昭子



「朋有り、遠方より来たる」

岩手県支部長 小山田 厚

極めて個人的な話で恐縮です。教員生活を終え、二年目を迎えます。現在、地元の教育委員会にお世話になり、微力ながら学校の手助けをさせていただいております。

退職した年、兵庫県加古郡に住む都留文科大学時代の友人山口豊くんから、8月末に岩手県花巻市を訪れるという連絡がありました。現在、彼は武庫川女子大学教育学科教授を務めています。本年、「徒然草から学ぶ生き方」という本を上梓しています。今更ながら、学ぶべきことの多い秀逸な一冊です。

三十年以上の時を経て、本当に久しぶりの再会でした。大学の講義では、宮沢賢治先生の作品についても行うということもあり、研究を兼ねて花巻を訪れた由。宮沢賢治先生の墓所、生家、記念館を巡り、最後は農民のための学習の場であった羅須地人協会へ。前夜、一献傾けた古ぼけた小料理屋。その女将から奇しくもいただいた賢治先生の生誕百周年記念テープ。小料理屋同様、すり切れて古ぼけてはいたものの、一番の土産になったと御礼の手紙に。ジョバンニくん(山口くんは自分を時にそう呼ぶ)、また訪れてください。今度は、ヤマナシの実が

トポンと川面に落ちる季節にでも。

そして、本年7月末には、富山県砺波市に住む大学時代の友人城岸毅くんと再会することができました。夫妻でのみちのく旅行の途上、花巻に立ち寄ってくれました。彼は、富山市教育センター所長を最後に退職し、現在は特別支援学校の講師を務めているとのこと。少林寺拳法拳士会では、互いに修行をした間柄。古ぼけた小料理屋で杯を交わしつつ、当時の写真を鑑に昔話。特に、東日本大震災では、物心共にありがたい支援をしてもらいました。君の修行の証に感謝しつつ、女将がサービスにだした味が良く浸みていた蕎麦の煮物をほおばりました。

翌日、賢治記念館から花巻市内を一望しながら、時の流れの速さを感じていたのは私だけではなかったと思います。東日本大震災以来、軽自動車に乗ることを決意した私の話を聞きながら、狭い車中に文句も言わず乗車してくれた城岸夫妻。今度はいつか、君のお孫さんを拝見しに、富山の海の幸を堪能しに、愛車で向かいたいと思いました。

たかが四年の学生生活イン都留。されど、都留文科大学学生時代インマイライフ。再会の友に今日も乾杯。

「花のかげ」は、欠かすことのできない愛唱歌

宮城県支部長 伊藤 常 治

宮城県支部総会は、平成30年2月3日(土)午後5時から仙台市のホテル白萩で開催されました。大学同窓会から加藤一雄会長、大谷哲夫東北福祉大学学長(前都留文科大学理事長)、山形県支部から佐藤英樹支部長、岩手県支部から小山田厚支部長、さらに、都留文科大学合唱団団長の小針叶愛さん、正指揮者の齋藤沙織さんをはじめ、県外からも多数参加していただき、総勢62名という過去最高の出席者数となりました。多くの交流が生まれ、出会いと再会がありました。「花のかげ」は、欠かすことのできない愛唱歌。鎌田光彦氏のアコーディオン伴奏のもと全員が肩を組んで歌い、宮城県支部の絆をさらに深めることができました。

また、今年度も4回の教員採用選考対策学習会を開催しました。1回目は仙台市立大和小学校で、2回目、3回目は大郷文化会館で行いました。大学からは、4年生3名、3年生2名が参加し、現職の受講生と共に真剣に取り組んでいました。4回目は、仙台市立大和小学校で一次試験合格者のための学習会を行いました。学習会参加者全員の合格を切に願っています。

宮城県支部の活動は、親睦であり恩返しです。鎌田清氏の経営する「きままや」で、あれこれ計画を立て、これからも親睦を図っていきます。

【平成30年度宮城県支部役員】

名誉会長 鎌田光彦 鎌田 清 小野俊次 千葉龍正
菅野俊雄 菅原義之

顧問	栗生秀夫 菊池繁子 高橋孝子 横山貞夫 伊藤常治	今野 凱 久我博子 松田美智子 齋藤章夫	今野貞子 半澤登美子 目黒つねみ 相澤光信	及川勝友 高橋 博 八巻洋司 森田宏彦
支部長	安曇玲子	市川人士	菅原佳江	工藤昌裕
副支部長	三浦純子 阿部清司 澁谷尚男 高橋克己 千葉睦子	齋藤 直 布施勝久 市岡良庸 伊藤 稔 加藤えり子	三浦二三夫 坂本忠厚 千葉洋之 蓮沼秀行 馬場純子	小石俊聡 片岡有吾 一條良介 松浦和浩
事務局	菅野俊雄 牛草 学 浅井理香	(事務局長) 小野寺直美 岸亜沙美	齋藤竜一 伊藤ひろみ 鈴木菜月	(事務局次長) 及川恵子
教採研修・	会員研修	菅野俊雄 坂本忠厚 片岡有吾 齋藤竜一 菊田 学	阿部清司 横山英実 一條良介	松浦和浩 大庄司華菜 森田宏彦
会計	地区役員	横山英実 ・仙台市 ・仙 南 ・中 央 ・大 崎 ・登 米 ・栗 原 ・石 巻 ・気仙沼	菊田 学 岡田 等 今野貞子 佐藤圭二 清水 進 手塚泰弘 小野寺永子 片岡明恵 千葉睦子 千葉慎一郎	阿部尚美 吉田準子 小笠原裕見子 早坂美由起 清水水実美枝 千葉 淳

設立25周年「べにばな会」総会

山形県支部長 白林 和 夫

平成30年11月17日(土)、山形駅前「ホテル・イーストワン」において、山形県支部「べにばな会」の総会及び懇親会が開催されました。本支部の総会は2年に1度です。設立25周年を迎えた今回の第13回総会も、いつも大変お世話になっている宮城県支部より伊藤常治会長、菅野俊雄事務局長のお二方をお迎えし、2年ぶりの開催となりました。

本学の同窓生は、同じ「都留」という限られた空間の中で学生生活を送った経験により、初めてお会いした方でも、いくら年齢が違っても、すぐに共通の話題で意気投合することができます。今回も、初参加の方を加えて14名の出席者が、都



留の町での、あるいは大学での思い出話を花を咲かせることができました。

今回はまた、本県のご出身で現在は福島市在住の今野 徹様より、最近の都留の様子を昔懐かしい場所と比べながら撮影した貴重な映像を見せていただきました。映像を見ながらの懇談は、例年にも増して盛り上がったものとなりました。誠にありがとうございました。

こうした楽しい場を、より多くの皆様に味わっていただきたいと考えております。2年後の次回は元号が改まってからの開催となりますが、これまで機会に恵まれなかった方も、ぜひお越しいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

【平成30・31年度「べにばな会」役員】

顧問	武田茂之 (初教・昭54)	
会 長	白林和夫 (初教・昭60)	
副 会 長	原田清一 (初教・昭60)	渡邊 隆 (初教・平4)
会 計 監 事	佐藤英樹 (初教・昭60)	
理事・村山	小川秀人 (国文・昭55)	鈴木雄二 (国文・昭55)
理事・最上	武田茂之 (初教・昭54)	佐藤敏幸 (初教・平8)
理事・置賜	神尾正俊 (国文・昭55)	菅野洋子 (初教・平13)
理事・庄内	奥山広幸 (初教・昭57)	中條秀基 (初教・平20)

支部設立10周年記念総会&教員採用試験に向けた学習会を開催

群馬県支部事務局長 島田 実恵子

群馬県支部では、平成30年8月19日(日)に支部設立10周年記念の総会・懇親会を開催しました。当日はお忙しい中、加藤一雄同窓会長にご出席いただき、大学のことや同窓会本部の活動、支部の活動についてお話していただきました。また、10周年記念イベントとしてミニオカリナコンサートも開催、やさしいオカリナの音色に、しばし耳を傾けました。懇親会では、学生歌「花のかげ」や「武田節」を大合唱し、たいへん盛り上がりしました。次回は2020年8月22日(土)高崎ワシントンホテルプラザで開催する予定です。多くの皆様のご出席をお願い致します。

教員採用試験に向けた学習会を、総会の前日高崎労使会館で開催しました。参加した学生は、模擬面接体験で堂々と自分の考えを発表したり、現職教諭永田将也先生の体験談を聞いたりして有意義な時間を過ごしました。群馬県支部では、今後もこのような事業を通して、学生のみなさんの支援を行っていきたいと考えています。



平成と別れる年に

埼玉県支部長 西 敬

会報(36号)で紹介した、霊峰「富士」は今年もその白銀の輝きを「冬の朝」に薄紅から茜へ彩るシルエットは「冬至の夕刻」に、その雄姿を秩父連山を越えて見せてくれます。自然の雄大さと、悠久の歴史を感じる一時です。2019年は「新たな元号」が始まるとのことです。さて、埼玉支部活動は、36号(前号)でお願いした、「同窓会登録の再確認」の途中です。事実上「休止状態」ですので支部にお名前が集まり次第、新規に会員情報の整理と組織再編を行います。また、継続案件の支部旗作製は、30年度中に完遂の予定です。(下記は支部旗作成のため、同窓会事務局よりご提供いただいた「統一支部旗」です)

支部旗の完成後は事務局保管とし、活用していきます。



2019年度は、支部組織の充実を活動課題として、進めてまいります。引き続き、埼玉県登録の方で、新たにご協力いただける場合には、お手数でも以下のアドレス(埼玉支部長連絡用)にお名前と卒業年度を件名にいらしていただき、空メールを送信してください。いただいた情報をもとに支部から直接連絡(セキュリティフォームを送付 P W保護)させていただきます。(勤務の関係で、下記アドレスは2019年3月までとなります。同窓会ブログ:埼玉県に掲載のアドレスは20年3月まで有効)

【近況】

2018年度当初人事異動で埼玉県在住(公立学校勤務)の方の紹介をいただきました。

Email 支部長 <tntn740331@gmail.com>

30年、教職員支援機構の学校組織マネジメントに関する研修をお手伝いすることができました。3回開催でしたので、全国から500名近い受講の方がお見えでした。受講の方と一緒にした時に、ふと「同窓会報」を思い出しました。そして、本学の卒業生(先輩・同輩・後輩諸氏)が広く全国で活躍しているということを実感しました。“支部長雑想”

千葉県支部からの活動報告

千葉県支部長 川名 和則

平成30年度の千葉県支部役員・事務局スタッフをご紹介します。

平成29年度～30年度の千葉県支部スタッフは、事務局を中心に大きく若返り、現在、組織的に取り組んでいます。

顧問	林 俊之 (S44初)	野田 純 (S46国)
	齋藤 喜雄 (S44初)	鮫田 信夫 (S45初)
	長田 照夫 (S45英)	竹内 昭 (S45英)
支部長	川名 和則 (S51英)	
副支部長	高野 清一 (S56初)	關 晶子 (S58国)
	大澤 次郎 (S58国)	佐藤 雅之 (S58国)
	菅野 和視 (S61初)	
監事	澤田 一哉 (S59英)	武藤 輝人 (H1初)
事務局長	木村 雅浩 (S59英)	
事務局次長	石毛 洋平 (H19初)	
事務局	辰馬 基倫 (H20初)	松尾美紗緒 (H23初)
	大脇 一輝 (H23初)	細井 夕紀 (H24国)
	本間 洋介 (H24英)	山田 啓介 (H25社)
	加養 孝善 (H26初)	國本 主税 (H27初)

4・5月、大学を訪問し、現役学生と面談しながら、千葉県への志願理由や採用状況を踏まえ、志願書の書き方・自己PR等も具体的にアドバイスをしました。

5月中旬、「新規採用者歓迎会」を、新生活についてや配置された学校の悩み等を解決するためのメンタルヘルスケア対策の一助として開催し、好評を得ています。

8月中旬、「千葉県教員採用試験二次対策研修会」を今年度も2日間開講し、多くのOB&OGが講師陣として受験生を指導してくれた結果、好成績を残してくれました。会場提供していただいた文理開成高校や関係者の皆様には、深く感謝申し上げます。

このように、千葉県支部としてはまだまだ微力な活動でありますが、更に『人間力溢れる都留文大生』を育成すべく取り組んでおりますので、今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



東京都支部の近況

東京都支部長 松本 多加志

同窓生の皆さま方におかれましてはご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。

今年も西日本や北海道が激しい豪雨や大きな地震に見舞われました。被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。例年、災害が多いですね。

一日も早い復興を祈念いたしております。

本年も東京都の教師を目指す本学の学生を対象に2次試験に向けた模擬面接練習会を平成30年8月11日(土)に実施いたしました。参加した本学の4年生は8名で、近年減少傾向がみられます。

本研修会は、数年前より東京都を受験する本学の卒業生に加え、都内の教職関係の大学で教授等をされている岩木晃範前東京支部長や橋本秀夫現副支部長が担当する東京を受験する学生も交えて実施しています。今年は、卒業生及び他校の参加者は5名で合計13名で実施しました。

受講生の感想として、他大学生等からの多様な意見を聞くことができ、幅が広がったとのことでした。

練習会にご指導戴いた現職の校長先生は、島川浩一(昭60:

初)・山崎聡(昭60:初)・高橋徹(昭61:初)・田村聡(昭60:初)・小林洋之(平2:初)の方々です。ご指導ありがとうございました。

反省会で、本学の学生は、『素直であるが、もう少し自分の主張を強く打ち出すことが必要』と、昨年と同様のことが課題となりました。

今年から道徳が教科化されました。私事ですが、今の私が有るのは、全国や都の道徳研究会で多くの事を学ばせて戴いたお蔭々です。

今後の道徳教育の更なる発展を期待します。

〈平成30年度 東京都支部役員〉

支部長	松本多加志(昭44)	
副支部長	黒田賀代(昭32)	長沢和子(昭43)
	橋本秀夫(昭44)	
庶務	奈良 寛(昭45)	榛原紀子(昭58)
	田村 聡(昭62)	西村学徳(平12)
会計	矢野 優(昭47)	
会計監査	松田篤郎(昭42)	岡部ひとみ(昭52)
相談役	桐井幸雄(昭32)	小林わか子(昭31)
	福元弘和(昭42)	岩木晃範(昭42)

神奈川県支部の近況と課題

神奈川県支部長 松下 登志男

12月9日(日)都留市のうぐいすホールで開催され、都留文科大学合唱団第53回定期演奏会に行き、全日本合唱コンクール10年連続金賞受賞の素晴らしいハーモニーを堪能させていただきました。神奈川からは今年も十余名が駆けつけ、感動を共有することができました。終演後、県支部の交流懇親会を開く予定でしたが、それぞれに忙しい予定があって、残念ながら今年は懇親会を中止することになってしまいました。開演前には懐かしい都留の町を散歩し、お世話になった下宿や食堂などの面影を訪ねたりもしましたが、都留も変貌していて、昔のままの姿に出会うことは難しくなりました。

毎年12月の第2日曜日、合唱団定演終了後は、都留での県支部交流会を開催します。残念なことに2学期末の成績づけなどで現役教員の方の参加は難しい時期ですが、定演会場でご案内しますので、是非お声をおかけください。

合唱団の素晴らしさを身近で鑑賞できるよう、来年の支部総会に合唱団に神奈川に来ていただきたいとも考えています。出演交渉はこれからですが、支部総会に多くの同窓生のご参加を

お願いします。

11月30日(金)に相模原市の同窓会「飛翔の会」が開かれました。同窓会本部の加藤一雄会長にご臨席いただき、全国の支部の状況なども聞かせていただくことができました。青森県支部が結成されるという嬉しいお話もお聞きしました。

「飛翔の会」の今年の出席者は総勢38名、市単位の同窓会支部の会としてこの規模はおそらく全国でも有数だと思います。今年は6名の大学現役学生さんにもご出席いただきました。神奈川に、相模原に就職が決まった方で、一足早い歓迎会となりました。

神奈川には多くの同窓生がいます。横浜・川崎でも、湘南・三浦でも中・西湘でも相模原市同様の組織の活性化が望まれます。県支部としてご支援します。

連絡先090-6931-3735 松下

若手教員を励ます会

富山県支部長 高木 要志男

例年、クリスマスの時期に「若手教員を励ます会」を開催しています。元支部長の石黒先生が始めてくださったこの会は、これまで夏の学習会に参加し、教員となった皆さん、学習会で指導にあたった会員が参加しています。元支部長の皆さんも出席してくださり、21名の参加がありました。

今年は、2次検査に臨んだ5名の学生が全員合格するとともに、講師をしながら挑戦した会員も合格しました。学習会への参加を通して、自らの力を一段と発揮したものと思います。

数年前から、結婚された(もうすぐ結婚予定の)若手教員には、ささやかなお祝いの品(菓子器)を贈呈しています。人生の大事な節目を同窓会としても喜び合う、そういう関係をつくっていきたいと思います。

さて、メインのプログラムは一人一人の近況報告です。学年の先輩に相談にのってもらい、児童生徒の指導や対応に生かしているという報告もあれば、今年は若いけれども体育主任を任せられ、責任感をもって取り組んでいるという報告もありました。自分の学級や担当教科だけではなく、学校全体をみるという姿勢も少しずつ身に付けているようです。

とりわけ、毎年、出席している教員の近況報告を聞いていますと、話し方や内容が変わってきたと感じ取ることができます。学校の上司や同僚に指導されたり支えられたりしていることもあるでしょうが、日々接している児童生徒とのかかわりから学んでいることが多いように思います。一方的ではなく、通じ合うことの関係を大事

にして教員としての生き方を考えていってほしいと思います。

若手の中でも10年教員経験のある二人の教員に、この会のお世話をしてもらっています。お兄ちゃん、お姉ちゃんという存在で、とても頼りになります。

岩瀬美穂さんは、この会について次のような感想を話してくれました。「わたしはこの会でスピーチをするときに、毎年一年一年を振り返っています。それと同時に新しく採用される方をお祝いすることで、自分が新採だったころを思い出し、初心とつながった先輩方や後輩たちと交流できる貴重な時間でもあります。」

また、吉田陽さんは、「最初はわたしの奥さんの合格をお祝いする小さな会から始まりました。毎年、少しずつ仲間が増えてきて、研修会などでお会いすると嬉しくなり、思わず笑顔になります。石黒先生がよくおっしゃる横のつながりを実感できます。教員採用検査で親身になって指導してくださった先輩の皆さんとお会いすることも楽しみにしています。」

二人の感想を聞きますと、わたしは「よし頑張って来年も学習会をしよう。都留大で学び、富山県教育の教育振興を担ってくれる後輩、各界で活躍している後輩とのつながりを大事にしていこう」と心底思ってくるのです。2019年は夏に総会・研修会を予定しています。一人でも多くの会員に参加していただき、実りある会にしたいと思います。

富山の地から、母校都留大のますますの発展をお祈りしています。



石川県支部より

石川県支部長 西田 良治

12月に入り加賀平野から望む霊峰白山は、既に雪化粧し、本格的な冬の訪れがもうすぐと語りかけているようです。

さて、今年の夏も石川県支部では、教職を志す現役学生たちに、退職者を中心にOBによる模擬授業及び面接指導を実施しました。小学校志望2人と中学校・高校国語科志望の合計3人に対して、半日ではありましたが、本番さながらの熱のこもった指導となりました。特に国語科志望のYさんについては、たまたまこの春に白山市内の中学校に赴任された、熊本県出身の宮村さんも加わり、ご自身の初任者研修等の体験を生かしながら懇切丁寧な助言をいただきました。(ちなみに私西田も国文卒で中学校・高校国語科の教員でした。)

その甲斐もあってか、後日Yさんから合格の嬉しい便りをいただき、指導した我々も来年に向けての大きな糧となりました。

次にもう一つ、全国の同窓生の皆様にご報告したいことがあります。多少個人的なことにもなりますが、ご容赦を願います。

私は大学時代、説話文学研究会と中世説話の中野ゼミに在籍

しました。あれから40余年、私どもの恩師の中野猛先生が、来年米寿を迎えられます。そこで全国の中野ゼミ同窓生に呼びかけ、11/4に河口湖の富士レークホテルでお祝いの会が開かれました。

当日は中野先生ご夫妻とご長男にご出席いただき、北は北海道から南は福岡まで世代を超えた24名もの同志が集い、久しぶりの旧交を温めながらの和やかな会となりました。二次会そして部屋での三次会と話は尽きず、翌日まで語り明かしました。写真はその時のものです。

なお、当日参加できないながらもご厚志をいただいた皆様には紙面を借りてお礼申し上げます。当石川県支部からは、山根公、長井恒治、幸崎美津雄、西田の4名が参加しました。中野先生の益々のご活躍ご健康を念じながら結びといたします。



都留との連携と「城山会」総会の開催

福井県支部長 吉岡 恒雄

平成29年12月下旬、都留文科大学同窓会本部との連携企画の一環として、「道の駅つる」においてセイコガニ（雌のズワイガニ）の販売が行われました。都留の皆様方に、福井の冬の味覚を楽しんでいただけたなら幸いです。

平成30年11月10日（土）には、「城山会」総会を昨年に引き続き嶺南の敦賀で開催しました。秋らしい爽やかな天候の中、県内各地から24名の会員が集まりました。

「花のかげ」の斉唱から始まった総会では、活動中間報告・会計中間報告が行われ、承認されました。次に、会員数の推移や総会への年代別参加者数の変化など、近年の城山会の状況を踏まえ、規約の一部改正（ブロック制の導入）を提案し承認されました。また、理事会で推薦された次期会長が、総会場で満場一致で承認されました。

総会に引き続き、「蘇州日本人学校の現状と現地での生活」と題して、かつて蘇州日本人学校に勤務経験のある杉村敏隆会員に講演していただきました。パワーポイントで写真や動画を映しながら、また現地のお土産等を手にしながら、蘇州での暮

らしぶりや学校生活の様子を詳しく紹介していただきました。参加者一同、大変興味深く聞くことができました。海外派遣教員への憧れを抱いた若い教員もいたのではないのでしょうか。

その後の懇親会では、司会者の軽妙な進行により、和やかな雰囲気ですべて終了しました。恒例となっている近況報告では、参加者一人一人が都留での思い出や現在の暮らしぶりをユーモアを交えながら紹介するなど、楽しいひとときを過ごすことができました。

中締めでは、再び「花のかげ」を声高らかに歌い、来年の再会を期してお開きとなりました。



山梨県支部の活動状況

山梨県支部長 千野 文雄

本支部では、毎年恒例の「教員採用試験二次試験対策会」を7月31日（日）、本学内において開催しました。対策会には、一次試験を通過した現役学生と卒業生の25名が参加し、個人面接や集団討論等を実施する中で学習を深めました。開催にあたっては、同窓会本部役員会のご支援を得ながら、本部役員や本学キャリア支援センター等の関係者、また昨年度めでたく採用され学校現場で活躍を始めたばかりのフレッシュな4名を講師としてお招きしました。第1部では、開講式後採用試験を突破した4名に、二次試験に向けての自身の体験談や対策等を発表していただきました。面接や集団討論の心構えをはじめ情報収集の仕方や面接ノートづくり等、分かりやすくお話しいただきました。午後に開催した第2部では、代表者による模擬授業と集団討論、模擬面接を行いました。予想問題や個人面接の質問等を通して、参加者一人ひとりの教育観や指導観、児童・生徒観が語られるとともに、教師を目指すという熱意が熱く感じられました。今回の対策会は、参加者が互いに学び合う場としてだけでなく、教師の道を歩もうとする更なる決意の場と

なったようです。

また、前後しますが、5月13日（土）には本学キャリア支援センター主催の模擬面接体験会が開催されました。全体会に続き、午後からは例年と同様、県ごとの開催となりましたが、本県では19名の学生が参加し、模擬授業や3グループに分かれての集団討論を実施しました。講師は、大学及び本県同窓会の役員を中心に7名が務めました。学生達の真摯に学ぶという態度に応えるべく真剣勝負で臨んでいました。教員を志望する学生達が夢を実現できるよう、これからも山梨県支部の主たる事業として取り組んでいきたいと思ひます。



前列中央は2年間御苦勞頂いた水上昭夫前支部長

「あの頃」にタイムスリップしたひととき

～第7回長野県支部総会を開催しました～

長野県支部長 小林 久通

長野県支部は、堀内敏明前支部長の奔走により、全国36番目の支部として発足して7年目。会員数は1258名です。本年度の支部総会・懇親会は、10月20日（土）に阿毛久副学長様、加藤一雄同窓会長様にご出席いただき、長野県の「へそ」ともいえる塩尻市の中信会館にて行いました。今年は長野県内各地から11名の参加がありました。総会では、来年度と再来年度の役員選出、事業報告・計画及び決算報告・予算案が承認されました。総会の中で、お忙しい中ご出席くださった、阿毛久



芳副学長様と加藤一雄同窓会長様から、大学の現状と今後の展望や同窓会の活動についてご講話をいただきました。大学が力強く変貌・発展している状況をお聞きし、心強く思いました。総会に引き続いて行われた懇親会では、自己紹介を兼ねて、それぞれの時代の都留大を語り合い、年代を超えた思い出話に花が咲きました。楽しく盛り上がった時間も瞬く間に過ぎ、来年の再会を約束して散会となりました。今後の課題として若い年代への声がけに重点を置きたいと思ひます。来年度は、東信地区で10月の第3土曜日に開催予定です。今後も、北信→南信→中信→東信の順に広い長野県を巡りながら、幅広い年齢層の同窓生が気軽に集まり、親睦を深めることができる長野県支部にしていきたいと思ひます。

今回の総会で改選・承認された役員です。

【平成31(2019)年度・2020年度 長野県支部役員】

支部長 下島 一道 (1986年卒) 初等教育
副支部長 市場香代子 (1985年卒) 英文
副支部長 市村 一彦 (1989年卒) 初等教育
副支部長 柄澤 敏 (1989年卒) 初等教育
監 事 金井 親志 (1986年卒) 英文
事務局長 岩崎 朗 (2001年卒) 初等教育

平成30年度岐阜県支部総会の開催

岐阜県支部長 清水久司

今年度は岐阜県支部設立8年目に当たり、8月に支部総会を開催しました。設立以来8年間、支部会長を務められた山本吉朗氏が、平成30年8月をもって惜しまれながら勇退されました。それに伴い、役員の一部交代がありましたのでこの紙面の末尾にて紹介いたします。

さて、今回山本会長の退任に当たり、支部設立当時の資料を読み返してみると、当時の様子を窺い知ることが出来ました。時間を追って頁を繰ると大学同窓会事務局とのやり取り、設立に関わる諸手続き、卒業生への呼びかけ等々、思いの外大変だったことが分かりました。とりわけ卒業生との連絡が最も大変だったようです。私自身、同窓会支部の仕事に携わるようになって、卒業生の方と連絡をとるのがどれ程大変かよく分かりました。また、連絡がついたとしても、一旦都留から離れ、それぞれに日々の生活を重ねていくと学生の頃のことも記憶の彼方に追いやられてしまいます。これも止むを得ないことでしょう。

けれども、やがて学生の頃の話になると、いつしか心も打ち

解けて懐かしい話題に花が咲きます。母校を同じくするという仲間意識。「都留文って、いい大学だったよね。」いつかこういう結論に至って、母校愛に目覚めたりします。同窓会の意義の一つがここにあるのではないのでしょうか。より多くの同窓生と語らいの場を持ちたいと願います。

平成30年度岐阜県支部役員

会 長	清水久司'78(国文)	
副会長	藤井幸子'69(国文)	香田静夫'85(初教)
監 事	河合 均'84(国文)	山岡一信'84(英文)
庶 務	佐藤眞治'72(初教)	梅田典利'91(初教)
//	村井一雄'78(初教)	古川一男'81(初教)
顧 問	細野矩義'66(初教)	山本吉朗'65(英文)



平成30年8月18日 於 ホテルグランパール岐阜山

それぞれの人生を、そして再会を

静岡県支部長 白井 泰

まず、わが大学合唱団の第71回全国合唱コンクール全国大会金賞受賞にお祝いを申し上げます。10年連続金賞受賞も快挙だと思います。おめでとうございます。

また、今年は日本各地、特に西日本や北海道南部で台風や地震に見舞われました。被災された方々、お亡くなりになった方々にお見舞いとお悔やみを申し上げます。

さて、平成30年10月20日にホテルシティオ静岡で支部総会を開きました。参加者は20数名と寂しかったですが、次回にはもっと広く呼びかけ、多数のご参加を期待したいと思います。今回は初めての参加の方が7名程おりました。多くは教員経験者ですが、それ以外の職業の卒業生もいます。静岡県の同窓生数は1500名を超え、山梨に次いで2番です。私の知る範囲でも公務員、警察官、銀行員として活躍されている方もいます。悠々自適の生活をしている方もバリバリ現役で働いておられる方も、年に一度都合をつけて顔を合わせましょう。

次回も10月19日(土)に同所で予定しております。会員の皆様、万障繰り合わせて是非ご出席下さい。個人情報何とかが卒業生の把握が十分出来ていませんので、下記連絡先にご連絡い

ただけると有り難いです。

毎年、「在校生との懇話会」で10数名の教員志望の学生とお会いします、平成30年度は他県からの受験者も含め8名ほどが合格されたようです。



平30総会 ホテルシティオ静岡にて

大学も変革期、福田学長はじめ教職員の皆様方で充実したグローバル教育を推進して下さいます。同窓生としてできる限りの協力・支援をしていきたいと思ひます。今年8月には大学で同窓会総会が開かれます。都合がつかましたら、誘い合つて出席しましょう。

〈連絡先〉 西部・大場孝純 0538-35-4779
中部・江川初枝 054-292-2231
東部・星屋 康 090-1289-0902
白井 泰 090-2185-8147

第14回愛知県支部(富岳会) 地域交流会

愛知県支部長 橋本 壽氏

今年度より、県内を7地域に分け、懇親会や研修会を開催し、支部活動を行っています。

今年も12月8日(土)に、恒例の地域交流会を豊田市の名鉄トヨタホテルで盛大に開催しました。参加者はOBの方を含め、総勢28名が集まり、久しぶりの再会に旧交を温めました。

年々現役卒業生の就職が減り、地域の活動に苦慮している報告も多くありましたが、地域によっては、卒業生の常勤講師を対象に1次対策を、8月には1次合格者を対象に、2次対策を実施し、確実に合格者が増えたとの報告もありました。この活動を発展させるには、これまで以上に地域ごとの連携と卒業生の進路等の情報が必要不可欠であることを参加者全員が確信した次第です。

最後は、恒例の大学校歌「花のかげ」を4番まで斉唱し、集合写真を撮り、散会となりました。

今後も、卒業生として誇りをもち、会員を増やし、支部の発展に努めていきます。

《平成30年度支部組織》

支 部 長	橋本壽氏(名古屋 57初)
事務局長	竹内義信(名古屋 58初)
地域幹事	名 古 屋 水野修司(61英)
	新城・設楽 後藤康仁(58英)
	知多・海部 榊原孝彦(57国)
	西 三 河 平岩康彦(58初)
	東 三 河 田村圭司(63初)
	尾 張 川村良司(61英)
	豊田・みよし 杉浦俊孝(58英)



三重県支部 第13回総会と懇親会

三重県支部長 田畑 繁行

8月25日、津市の教育文化会館において、支部総会を開催しました。大学の同窓会事務局から新しく名簿をいただいたこともあり、本年度は、初参加の3人を含めて盛大に開催することができました。

総会では、理事会の報告や支部の活動・会計報告、役員の改選、今後の活動等について承認されました。

総会後の講演は、支部会員の森雅也さんに「私の娘が都留大に行ったわけ」という演題でお話していただきました。森さんご自身の学生生活や体験を家族に話さず、娘さん本人が目的意識を持って、自分の学ぶ場として都留大を選ばれたことを話していただきました。参加者は、みんな食い入るように話を聞かせていただき、自分たちの学生生活を思い出したり、自分たちと比べたり、また、改めて都留大の魅力を感じたりしました。

懇親会は、会場を「炉庵」に変えて行いました。テーブルごとに話が弾み、終始和やかな雰囲気で行われました。

県支部は、今後も会員相互のさらなる親睦と交流を図るため、活発な活動を行ってまいりますので、会員の皆様のご協力

をお願いいたします。

平成30年度 三重県支部役員（卒年度）

顧問	福田 和幸（S46国）	
会長	田畑 繁行（S54初）	
副会長	廣田 貞代（S53初）	田中 幹也（S52初）
監事	中瀬 善美（S47国）	八重嶋敏一（S55初）
事務局長	六田 嘉郎（S57初）	
会計	松岡みつ子（S56初）	
庶務	一木 尚子（S52初）	宮崎 弘子（S56初）



滋賀県支部 結成5年目

第5回支部総会と懇親会を実施

滋賀県支部長 松嶋 孝雄

滋賀支部が結成され5年間が経過しました。年1回の総会も、はや5回を数えました。

平成30年8月25日に草津市内のホテルにおいて、事務局長様のご尽力により、第5回の滋賀支部同窓会総会と懇親会を開催することが出来ました。

ここまで、昨年書かせて貰った文書と変わったのは、回数と開催日だけです。何故こうした文書にしたか、と言うと、我が支部事務局には大変な苦勞をして頂いており、極一部新しい方に参加頂いていますが、ほぼ変わらないメンバーと人数で開催されています。こうしたことからです。

4月には、理事会に参加することが出来ました。

その会で耳にしましたお話で、我が県同窓会のレベルとは、大きな開きがあることを知りました。会報では承知してはおりましたが、我が責任をひしひしと感じました。会長として非力であることを申し訳なく思っています。しかしながら、毎年初めて参加して下さる方がいることは、喜ばしいことです。

事務局長（村田氏）の尽力により、次年度は、本大学の中興

の祖とも言うべき福田学長先生から、お教を賜る機会を設けて頂きました。この拙文が、我が県同窓会の方々の目に留まり、参加意欲を高めて貰えればと願っています。



滋賀県支部役員

支部長	松嶋孝雄（昭46年度初卒）
副支部長	大澤 裕（昭56年度国卒）
会計監査	大橋雅子（昭57年度初卒） 中村雅昭（昭58年度初卒）
事務局長	村田良文（昭58年度初卒）
事務局	齊城勝美（昭59年度初卒） 竹内正道（昭63年度国卒） 鳥飼雅一（昭59年度初卒）

京都府支部第5回総会と懇親会

京都府支部長 枅谷 雄三

12月2日（日）に総会と懇親会を行いました。昨年は北部で行いましたが、今年はまた京都市へ戻り京都市駅そばのホテルで行いました。

『城山・桂川だより』第6号（30年3月31日発行。毎年、春に発行。全会員に郵送。A4版4ページ）等で会員のみなさまにお知らせしました。

当日は、毎年のことながら事務局長の労作の小冊子（総会資料とともに欠席者からのメッセージや「花のかげ」「武田節」を掲載）と大学から取り寄せた資料が配布されました。4月の事務局会議の報告もあり、発展するキャンパスについての情報

も得られました。11月には「道の駅つる」開業2周年イベントとして都留大同窓会ブースに、会員の「ちりめん山椒」などの商品も置いて



くださったことの紹介や、「道の駅つる」の商品販売もありました。集合写真にあるように支部長と事務局長がイベントの時の法被をお借りして着ています。

総会が終わり、懇親会・二次会と続きました。二次会もほぼ全員が参加。京都の教育の現状、今の生活のこと、様々な話が続きしました。

特筆すべきは、新卒の同窓生が参加して下さったことです。「武田節」をご存じない世代だということに一同驚きました。

○大先輩方のお話をたくさん聞けてすごく楽しい懇親会になりました。来年も参加させていただきたいと思います。

○楽しい会でした。

○大変楽しかった。卒業間もない方に参加いただいて大変うれしかった。

○毎年ですが、とてもよかったです。参加者を広げます。

【京都府支部役員】

支部長	枅谷雄三（S45年卒）
副支部長	北村友子（S49年卒）
事務局長	草野 真（S50年卒）



ただただ感謝 ～大阪府支部同窓会～

大阪府支部事務局長 小林 治

平成30年9月15日(土)、都留文科大学大阪府支部同窓会並びに懇親会を行いました。今年も、三国ヶ丘駅前「焼き肉のはや」でした。

私事ながら、大学を卒業して、38年になります。大学卒業後、10年講師を続けておりました。

あるとき、同窓会をしているから参加しないかとお誘いを受け、大阪府支部の同窓会に参加させていただきました。もう何年続いているのでしょうか、アットホームな会でJRと南海高野線の三国ヶ丘駅前の「焼き肉のはや」で今も続けております。日にちを忘れないように毎年、堺市の入学式の日に行っておりました。

平成20年4月には大阪市のみなさんにも声をかけ、大阪府支部同窓会を行うことができました。

また、採用試験に向けての学習会も行ってきました。若手の会、管理職研修もかねての学習会等、様々に取り組みもしてまいりました。

今も、三国ヶ丘「焼き肉のはや」を決まった店として、毎年

大阪府支部同窓会を続けております。

来年度も秋の開催を予定しております。ふるって皆様ご参加いただけましたら幸いです。

たくさんのお大阪の同窓生の皆様にご案内するのが本来ではありますが、なかなかできません。

大阪府支部事務局長小林まで、ご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

最後に毎年のようにご案内いただきながら寄稿できずにいた



ことをお詫び申し上げますとともに同窓会事務局の皆様にあたためてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



第28回 兵庫県支部総会・懇親会開催

～世界を見据え 地域に生きる～

兵庫県支部長 渋谷 訓生

平成30年度・第28回支部総会を6月9日(土)に篠山市で開催しました。

時あたかも、10年続いた市名論争で「篠山」か「丹波篠山」かで大盛り上がり。(全国初の市名変更を問う住民投票で、「丹波篠山市」への改名が決定)

人口4万2千人の小さなまちが、どう生き残っていくかの市名改名は、小さなまちの小さな大学の将来と重なって見えました。

第1部の総会——会場の前面には総会名、両サイドに大書された「菁莪育才」と「世界を見据え地域に生きる」をレイアウト。会員によるウェルカム・ミュージックの生演奏で迎えられました。大学の現状報告では、資料として福田学長の「大学のこれまでとこれから」が用意されており、その内容に感銘を受けるとともに、卒業生の士気を鼓舞するものでありました。(次回は、ぜひ生学長先生に)。

第2部の研修会——篠山藩六万石の城下町、篠山歩兵70連隊の軍隊町、戦後は兵庫農科大学(現神戸大学)の大学町と、時

代とともにしたたかに生き抜く町を散策。元文化庁長官・河合隼雄先生、落語家・桂文珍師匠、現文科省山脇良雄審議官の故郷でもあります。

第3部の懇親会——「王地山・ささやま荘」(奈良朝末期には遷都の候補地になったことから「王地」の地名が生まれた)で、自己紹介・近況報告の後は恒例の「花のかげ」を大合唱して最高潮に達しました。

今回は、創立60周年を記念してつくられた「都留はuniverse」が紹介され、都留の心象風景が蘇り、胸が熱くなりました。特に、「互いの訛りが心地いい、小さな日本に私は、いる」「All The World's A Stage(世界はひとつの舞台だ)」のフレーズは、今も耳に残って離れません。還暦を迎えて生まれ変わろうとする都留文科大学へのすばらしい応援歌のように思われました。



多くの仲間が集い語らう総会

奈良県支部長 岡田 善英

今年も8月26日に学園前の中国料理店『銀座四川』にて、第7回奈良県支部総会を開催しました。県の支部総会は、例年8月の第4日曜日に開催しています。この時期は夏休み中でもあるので、会員の方々には時間的にも参加していただける余裕があるのではと考えて、第2回の総会から定番化してきています。

今では総会の案内を差し上げると、多くの方から総会を楽しみにしていますとお返事をいただきます。ただ会員の中には体調を崩されたり、家族の介護等の事情で参加ができないとお返事が増えてきつつあるように感じます。会員の高齢化も無視できません。

第2回総会から今年で6年連続で総会を開催することができました。役員の皆様の総会開催への情熱が核となって今日に至っております。当面は10回の総会開催を目指して活動を継続していこうと、心を新たにしております。今後も支部旗の下に多くの仲間が集い、語らう総会を皆さんと共に作っていきましょう。

平成30年度支部役員

名誉会長 瀧川 佳市
本会長 岡田 善英
副会長 高橋 強
山本 泰彦
監事 石田 好庸
理事 西尾八千穂
辻 明彦
米田 悦子



和歌山県支部結成 3 年目・4 年目

和歌山県支部長 谷口 博保

和歌山県支部が39番目の組織として結成されて2年が過ぎ、平成30年3月10日に設立後初の総会を開催し、役員改選等を行いました。会報誌が届く頃には4年目に入るところです。

役員の組織構成は、年齢的には現職を離れた60歳以上に偏りがちになるのですが、設立時から30歳前後の若手にも2名入ってもらったり、また地域性を考慮して県内各地から、さらに大阪府に在住している和歌山県出身者にも役員として入っても



らったりしています。そして役員会や懇親会等の開催地も偏らないようにしています。

現職・前職が教職員であることが多いのですが、職種や有職・無職、老若男女を問わず活発な交流を図り、設立時に「本会が、楽しいわくわくする会になるよう会員一同努力しよう」という目標を立てて会の充実に努めてきました。さらなる充実を図るため継続して取り組みたいと考えています。

【平成30年度・31年度役員】

顧問	前田 忠 (S45初)	
会長	谷口 博保 (S51初)	
副会長	廣田 千鶴 (S50初)	阪中 美文 (S53初)
	和田 靖子 (S52初)	中村 善弘 (S54国)
事務局長	山田 欽哉 (S52初)	
監事	小左古 治 (S45英)	山入 邦雄 (S46英)
	木浦 憲一 (S46初)	根田 渡 (S47英)
庶務	平野 幹夫 (S47初)	永石 和 (S57初)
	真砂 良子 (S54初)	前田麻唯子 (H18英)
	廣田 敬則 (S55初)	北出 雅也 (H23社)
	鳥越 博 (S57初)	

毎年恒例の同窓会

鳥取県支部 真島 祐二

11月23日(金)に毎年恒例となっている鳥取県支部総会を行いました。今年度は14名が集まり、都留で過ごした懐かしい思い出話や近況報告などを楽しく語り合うことができました。

今年話題の目玉は、50年前の音楽棟(木造の暗い建物だったそうです)での講義のことで、持ってきてくださった当時の写真を見ながら、昭和40年代の大学や学生の話がうかがえました。参加者は様々な年齢構成でしたが、それぞれが、親元を離れて一人で生活することの大変さ、友達と夜を明かして語り合った(飲みあった)思い出の数々、単位を取るために何度も練習したピアノ練習などを思い出し、話がさらに盛り上がりました。世代を超えて、都留文科大学での学生生活を大切に思う気持ちでつながることができたと思います。

また、春に行われた大学での説明会で、「受験者数が減り、大学の偏差値が下がり気味である。」と説明があったことを聞きました。学生確保が難しい中でも、都留文科大学は、学科新設、北欧留学や国際バカロレアプログラムに対応する教員養成課程と、独自の魅力を発揮できる大学へと進化し、注目される

ようになっているということも情報共有することができ、卒業生として、喜ばしく誇りに感じました。

今後の活動として、在校生の就職相談や教員採用試験に対するアドバイスをすることはもちろんですが、都留文科大学の良さを積極的に高校生や保護者にアピールすることも大切さだと思いました。そして、年1回の同窓会にもっと多くの仲間が集えるように声掛けをして、鳥取県支部をますます発展させようということを決めました。設立十数年を経過したので、都留まで出かける「バス旅行同窓会」を企画実現したいというアイデアも出され、今後の活動を楽しみにしながら1年後の再会を約束して散会となりました。



支部設立14年目を迎えて

鳥根県支部事務局長 大島 英明

平成30年9月1日(土)に都留文科大学同窓会鳥根県支部役員会を開催しました。役員会→総会と隔年ごとに開催していますが、今回は6名の参加となりました。

会では、役員会のメンバーの若返りを図り、世代交代を考えて行くと同時に、西部の会員との交流を行っていかなくてはならないのではという話題が出ました。

私事ではここ数年、採用試験対策講座の講師として毎年都留に行かせていただいております。今年度も集団面接の講師として学生の前に立たせていただきました。都留とのつながりを継続して持つ



ことができ、大変うれしく思っています。

また、大学時代の下宿の友人と卒業以来の再会ができ、これもうれしい出来事でした。

その後、泊まった大学会館では、昨年度と同様にテニス部の大先輩とその友人の方と一献し、懐かしいお話や現在取り組んでいることのお話をし、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

今後は、西部での総会の実現に向け、活動を進めていく予定です。たくさんの方の同窓会のメンバーの方に総会に参加してもらう仕組み作りを考えていきます。今後も鳥根県支部の活性化を図っていきたくと思っています。

以下、現在の役員を紹介します。

鳥根県支部役員(卒業年度)

○顧問	木村晴男 (S44)	
○支部会長	小藤 貢 (S45)	
○副会長	服部哲郎 (S44)	槇野博巳 (S45)
	飯島良子 (S53)	
理 事	寿 慧信 (S42)	伊藤 博 (S44)
	大島英明 (S59)	
○事務局長	大島英明 (S59)	

15周年を迎えた岡山県支部

岡山県支部長 原田直樹

私ども岡山県支部は設立15周年を迎えております。まずはじめに、今年7月西日本を襲った豪雨災害で岡山県も甚大な被害を被り、特に倉敷市真備町はその爪跡が今も手のつけようもないような状態で、全国からボランティアの方々が復興のためにおいでくださり、毎日泥だらけになって頑張ってくださいています。

大学同窓会本部からは同窓会長様がお見舞いのお電話をくださり、更にお見舞い金までも頂戴いたしました。岡山県保健福祉課をとおして義援金の形で寄付させていただきました。心からお礼申し上げます。

さて、平成30年2月11日に公立学校共済施設「ビューリティまきび」で支部総会を開催しました。掲載の写真が総会参加者です。前年度を大幅に上回る16名の参加となり、たいへんな盛り上がりとなりました。毎年支部総会は2月11日頃を予定していますので多くの方が集い、懐かしいお顔をお見せください。若手の会員の参加を特に心待ちにしています。

今後の岡山県支部発展のためには、若い皆さんのパワーが必

要です。新陳代謝をし、活力あふれる岡山県支部にしていきたいと願っています。

支部役員が少し変わりました。一致団結して、岡山県支部を盛り上げていきますので、お力添えをお願いいたします。

岡山県支部役員

支 部 長 原田直樹

副支部長 菱川 徹

理 事 野崎博子、岩城孝志、中野元雄

監 査 関野茂夫、竹内真二

事務局長 野崎博子

事 務 局 中野元雄、竹内充子



人の絆で 足跡を 築かん

広島県支部長 小谷桂司

支部活動も本当に少しずつ、少しずつです。

例年、私は、大学で行われる4月の同窓会理事会後の懇談会・交流会、5月の模擬面接試験体験会の日に行われる同郷の在校生との懇談・情報交換会でお会いした人が受験し毎年3月末、新聞報道に掲載される広島県(市)の人事異動の中の「新規採用者」の欄に、あのお会いした人の名前を見つけ出した時は、「都留文大・都留市で、学んだこと」を活かしてくれる人が「広島に帰って来た」と。

在校生には、大学で行われる4月・5月の会合に多数の参加を望みたい。そして、広島に帰って来て、「新たな風を」と願っています。

さて、今年の県



の総会の場を尾道市にて実施しました。参加していただいた方に感謝ばかりです。

総会参加者を増し、人の絆を、また、工夫をと。

最後に、7月の豪雨災害、支援に感謝致します。

己亥 元号変わる 亥の年に

変わらぬ絆 足跡築く

桂 歴代

平成30年度役員

顧 問 金久睦彦 中西正一

会 長 小谷桂司

副 会 長 目崎仁志

事務局長 二宮 正

理 事 田丸正美

猪原憲三

池田桂子

監 査 役 白石 隆

監 事 山中 護

奥窪尚昭

宮本 仁

本宮達弘

島本智子

五葉木輝正

田辺恵子

末房朋子

山城義明

土橋義信

福岡武志

兼丸裕子

玉山 洋

三永政幸

吉貞至誠

安藤正弘

支部結成25年目を迎えて

徳島県支部長 小倉健司

徳島県支部は、平成5年に結成され、平成30年度で25年目を迎えています。これからも大学の発展に寄与できますよう、また、支部が充実していきますよう活動を活性化させていきたいと思っています。今後とも同窓会本部の皆様のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

平成30年8月10日に、昨年に引き続きホテルグランドパレス徳島にて、都留文科大学同窓会徳島県支部総会ならびに懇親会を開催しました。掲載の写真が本年度の参加者です。

総会において、都留文科大学の現状(①同窓会理事会資料の回覧 ②ふるさと納税について ③学科の編成について ④名門私大より地方国公立大について ⑤在学生との懇話会について ⑥模擬面接試験体験会について等)の伝達をしました。そして、今後の活動計画・予算・役員等の報告について承認されました。

総会後の懇親会では、初めに全員で学生歌「花のかげ」を合唱し、それぞれが学生時代に思いを馳せることができました。自己紹介を兼ねての近況報告や、都留での学生生活の様子や思

い出話に花を咲かせました。話の中で、高校教師をしている同窓生から、大学進学で悩んでいる生徒に、受験は文大に決めるよう勧め、見事合格し、生徒から大変感謝された報告や、夫婦や親子がそろって文大生という羨ましい話がありました。また、学生時代の部活動が活かされ、徳島県の国体選手として長年活躍していた話等で盛り上がりしました。卒業した年度や都留で過ごした時間は違いますが、大学や都留への思いは、皆さん同じだと確信し、和やかな雰囲気の中で、大学が益々発展していくことを願いました。

次回は、2019年8月の開催予定です。たくさんの同窓生の皆様のご参加をお待ちしています。



平成30年8月10日 於 グランドパレス

つながり・広がり高知県支部

高知県支部事務局長 田辺 長 美

平成15年6月に高知県支部が設立されて、今年で16年目を迎えました。同窓生数は少ない高知県ですが、支部設立から県内同窓生の集いは脈々と続いています。しかし、昨年度は、台風の接近に伴い、四万十市で予定していた支部総会が中止となったため、毎年続いていた総会・親睦会がとぎれてしまいました。本年度は、8月4日に高知県西部にある四万十市で改めて総会・親睦会を開催しました。2年ぶりに集まった同窓生みんなが笑顔で再会を喜び合い、都留での生活を語り合い親交を深めることができました。

高知県の支部総会では、参加者全員が「花のかげ」を合唱してから開会となります。卒業年度は異なる同窓生たちですが、この「花のかげ」を歌い出すと、自然と笑顔になり、都留での生活が懐かしく思い出されるから不思議です。総会後の懇親会では、それぞれが大学でお世話になった先生方や大学での生活、下宿のできごと、部活動のことなど、参加者みんなで大いに盛り上がり、近況報告や情報交換も交え楽しい時間となりました。

総会では、県支部長から同窓会理事会の報告があり、地域に根ざしつつも国際的な視野での人材育成をめざした取組や大学周辺の町並みの様子など、興味深くお聞きしました。そして、

平成28・29年度の活動報告、決算報告並びに平成30年度の活動計画・予算案を確認しました。

高知県支部総会では、毎回話題にあがることがあります。それは、支部総会への「参加者を増やすこと」です。毎年、総会・懇親会への参加者が固定化されており、一人でも多くの同窓生に参加してもらえよう、支部としてどのようなことができるか知恵を出し合っています。これまでの取組として、知り合い同士で声をかけ合ったり、誘い合ったりしているのですが、なかなか新しく参会するメンバーが増えない状況が続いています。

今回、出された活動案には、県内東部地域での開催をはじめ、宿泊を伴う研修や貸し切りバスを利用して都留への訪問研修など興味深いものが数多く出されました。検討された活動案について、県内の同窓生にも知ってもらい、アンケート等でご意見をお聞きしながら、魅力ある支部活動に取り組んでいこうと確認しました。さらに会員相互のつながりを広げ、親睦を深め合う高知県支部をめざしていきます。



少～し！ パワーアップした同窓会総会

長崎県支部長 平山 繁 壽

今年度は住所や勤務校等が確認できた会員100世帯に「総会の案内状」を発送しました。

返信が届いた約40通のハガキには、詳細に近況報告を書いてくれた会員もたくさんいました。残念なことに既に逝去されていて、奥様から返信が来たハガキもありました。

その結果、今年度は、長崎市内からの新たな3名の出席者に加え、9名で長崎市内の「セントヒル長崎」で、「平成30年度の長崎県支部同窓会総会」を開催しました。

自己紹介及び近況報告では、現況やそれぞれの時代の都留での思い出話で大いに盛り上がりを見せ、一人一人の話が長くなり自己紹介が終わるの心配なくらいでした。また、雑誌「AERA」に掲載されていた「都留大のランキング記事」を見つけ、プリントして持参した会員もいました。7月下旬には、本部の同窓会名簿が



ら漏れていた会員を新規に名簿に追加記載してもらおう手続きを行い、同窓会事務局には大変お世話になりました。

次年度に向けてさらに一歩踏み出したので、来年度までは、自宅の住所が確認できている会員全員に「支部総会案内状」を出すことに決まりました。

来年度の総会は、2019年7月27日(土)

18時30分～ 会場：セントヒル長崎

の予定です。多くの会員の出席を待っています。

【平成30・31年度の役員】

支 部 長：平山繁壽(昭和44年度卒) 島原市

事務局長：渡邊 林(昭和45年度卒) 南島原市

副支部長：江口匡彰・明石 仁・太田尾透一郎◎

監 事：尾崎威敏

【地区代表・事務局】*太字は、地区代表

(長 崎) 江口匡彰・尾崎威敏・清水正道◎

(佐 世 保) 柴田高明

(諫早大村) 川口良輔

(島原半島) 渡邊 林・西田正人・三宅道夫

(五 島) 明石 仁・牟田茂博

(壱 岐) 西谷徳道・坂口 隆

(対 馬) 平山俊章・松島 修二◎

「福田誠治学長」をお招きして

熊本県支部長 永田 好 文

昨年10月、2年に一度の県支部総会を開催しました。県内各地から24名の参加があり、初参加者が3名いらっしゃいました。その中に熊本地震で甚大な被害を受けられた方もおられ、地震当時の様子や現在の状況を伺うことができ、改めて、震源地付近に在住されていた方が体験された地震の恐さを再確認した次第です。

さて、今回は何よりも福田学長にご臨席いただいたことが、出席者の増加と盛会に繋がりました。講話でご紹介いただきました世界の中の日本の現状、グローバル化推進の一環として都留文科大学に新設された国際教育学科の概要等々、どれも新鮮且つ驚く内容ばかりで、講話に耳を傾ける会員の眼は年齢を問わず輝いていました。

懇親会では、福田学長の教え子も数名おられ、当時の思い出話に花を咲かせておられました。会終了時には、参加者の心はすっかり当時にタイムスリップし、杉水氏の軽快なアコーディオン伴奏による懐かしい「武田節」の全員合唱で、盛会のうちに会を閉じることができました。



なお、支部総会で平成28・29年度の会計報告、平成30・31年度支部役員が承認されました。

今回の支部総会は、2年後の10月最終日曜日の正午に開催予定です。多くの会員の参加をお待ちしています。

☆平成30・31年度支部役員

◆顧問 川口治夫(昭34年卒) 田山智晶(昭35年卒)

◆会 長 永田好文(昭48年卒)

◆副 会 長 高倉利孝(昭46年卒) 山邊健二(昭46年卒)

◆事務局長 田山智雄(平元年卒)

◆企画担当 杉水 修(昭62年卒)

◆青年部担当 谷方寛裕(平27年卒)

◆会 計 池田由美(平元年卒)

◆会計監査 白木憲昭(昭48年卒) 藤掛久美(昭49年卒)

◆地区委員

○県北…松村誠一(昭43年卒) ○阿蘇…山邊健二

○熊本・宇城・上益城…杉水 修 田山智雄

○八代…白木憲昭 ○天草…高倉利孝

○人吉・球磨・葦北・水俣…坂本 彰(昭53年卒)



鹿児島県支部「桂川会」平成30年度総会を開催

鹿児島県支部長 本田 武久

第19回（平成30年度）支部総会・懇親会を、10月20日（土）午前10時から鹿児島市のホテル吹上荘で開催しました。

総会では、会務報告・役員の承認・同窓会本部からの各種資料の配布・同窓会理事会の報告等が行われました。例年と異なり、同窓会本部から多数の都留文科大学に関する資料の提供があり、年配の参加者からは、大学の変容に驚きの声が挙がっていました。総会後は恒例の研修を実施しました。テーマは「明治維新150周年と西郷どん」と題して、鹿児島探検の会代表 東川隆太郎氏に約1時間半の講演をお願いしました。同氏はNHKの大河ドラマで時代考証を担当している鹿児島県立図書館長の原口泉氏とともに、ドラマ制作に深く関わっています。大河ドラマに出演している方の魅力やエピソード、今後のドラマの見所など楽しく話してくださいました。

午後はアルコール抜きの昼食懇親会。今年度の参加者は昭和36年度卒業の最年長者から平成28年度卒業の最年少者まで37名でした。女性会員7名の参加もあり、和やかな会食となりました。現職の会員の参加者数も20名と半数以上を占めており、

年々活気が出てきているように感じます。会の後半では、各自の大学時代の思い出や近況報告を行いました。進行係からの指示1分以内でとの声もどこ吹く風で、皆さん長々とマイクを握り、4時間の会場予約を軽くオーバーし、5時間近い総会になってしまいましたが、和やかな1日となりました。



支部長 本田武久（昭和43年度卒）

副支部長 植村和信（昭和45年度卒）

副支部長 大山典男（昭和45年度卒）

事務局 水流広之（昭和55年度卒）

事務局 中村智子（平成元年度卒）

監事 室屋 綾（平成2年度卒）

監事 平澤泰明（昭和41年度卒）

2019年8月県同窓会総会開催に向けて

沖縄県支部長 比嘉 正夫

2018年11月に臨時の役員・事務局会を持ちました。不手際で参加できなかった皆様にはお詫び申し上げます。新体制になり、思うような活動ができず申し訳なく思っています。

会では皆で学生歌と新しくできた愛唱歌を聞き、口ずさみました。「花のかげ」はやはり愛着があり、♪生命の讃歌…など、在学当時の気持ちや都留の様子がよみがえり、命が若返ってきました。また「都留はuniverse」では全国から都留に集い、生活した全国、世界へと羽ばたいている同窓の皆さんの姿から「都留は宇宙」との表現に驚きと納得感を感じました。すばらしい歌ができました。

沖縄県支部は変化・発展している大学の学生を微力ながらも支えることを模索しながら、県内会員相互の親睦を図るという同窓会県支部の目的を再確認し、次年度の総会について話し合いました。

2019年8月11日（日）に沖縄県支部 総会並びに懇親会を開催することになりました。多くの会員や現役学生の皆様と会えますことを楽しみにこれから準備を進めていきます。

沖縄県支部の役員の姿を見ても、様々な分野で奮闘していることがうかがえると思いました。

顧問	金城 宏安	アナウンサー大活躍後会社役員
会長	比嘉 正夫	校長退職 施設受付非常勤
副会長	伊波 聡	中学校教諭
理事	天顔 亮	市役所勤務、
	儀間由紀乃	小学校教諭、親川 光倫 警察官
事務局長	親川 光倫	警察官
副事務局長	金城 生	小学校教諭
会計	山入端秀章	児童養護施設勤務
副会計	前大 梨瀬	大学職員
事務局員	金城 生	小学校教諭
	仲地 星夜	小学校教諭
会計監査	徳本真理子・比嘉真貴子	高校教諭



体育会紹介

平成30年度体育会 会長 石田 陸

早春の候、都留文科大学の同窓会員の諸先輩方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成30年度体育会基本方針「飛翔」の下、体育会本部並びに各部活動を精進して参りました。今年で45回を迎えた鶴鷹祭は2年ぶりとなる都留文科大学をホームとして開催されました。結果は高崎経済大学の3連覇で幕を閉じました。ホーム開催の中、敗北を喫してしまい体育会本部としても悔しい結果となりました。しかし、白熱した試合が繰り広げられ、今年度も大いに盛り上がりました。

また関東甲信越大会を始め、各部のリーグ戦などの試合では、優秀な成績を収めることが出来ました。各部がこの

ような成績を収めることができたのも、ひとえに先輩方の多大なご支援ご協力があったることとっております。常に感謝の気持ちを忘れずに、これからも体育会一同、より一層精進してまいりますので、今後とも都留文科大学体育会をよろしくお願い致します。



平成30年度 男子バレーボール部 主将 田原 和樹

早春の候、都留文科大学同窓会員の諸先輩方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成30年度男子バレーボール部は、「リーグ昇格」を目標に日々練習に励んで参りました。結果としてはこの目標を達成することができませんでした。春季・秋季リーグ、鶴鷹祭、関東甲信越大会など様々な大会を通して、チームとしても個人としてもレベルアップすることができました。特にこれからチームの中心となっていく1・2年生にとっては、大きな経験と自信を得るものとなりました。大会を重ねるごとにチームに馴染み、期待に応えてくれました。その中で課題も多く残りました。これからのチームに

何が必要であるか、何をすべきであるか、しっかりと考えチーム一丸となって精進していきたいと思っております。

今年度達成することができなかった目標は来年度への持ち越しとなりましたが、この悔しさをバネに前に進んでいきたいと思っております。今後とも男子バレーボール部をよろしくお願い致します。



女子ハンドボール部所属 藤井 ふた葉 (国文学科3年)

2年前の春にはたった5人だった女子ハンドボール部。今年の春、ようやく4学年が揃い、単独チームとしてリーグ戦に出場することができました。引退した今思うことは、ただただ、ハンドボール部という場所を守り続けてくれた先輩方と、これから先につなげてくれる後輩たち、並びに、日々の活動のために尽力していただいている体育会本部や後援会・同窓会の皆様への感謝です。

特に、主将としての1年間は、本当に多くの人の支えを感じました。ついてきてくれる部員はもちろん、部の枠を超えて接してくれる先輩方や主将のみんな。体育会に所属しているからこそ得られたつながりは、他のものには変え

がたいものだとなひしひしと感じました。

近年、部員の確保はどの部にとっても大きな課題です。しかし、部活動に対する思いを同じくする人がすぐ近くにいた頼もしさは、都留だからこそ、より強く感じられます。これからも、部活動が学生の大切な居場所になり続けることを願うばかりです。



ラグビー部 曾我部 慎平

早春の候、同窓会の諸先輩方に置かれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度をもちまして、都留文科大学ラグビー部は50周年を迎えることとなりました。半世紀の長きに渡る伝統を継承出来るのも、OB・OGの皆様方が部の伝統を築いて下さったからであると深く感じております。今期に置しましては、チームスローガンである、「一団一心～one team, one heart～」の下、半世紀の伝統の継承と革新を行なって参りました。具体的には、ファーストジャージ、チームウインドブレイカーの製作、OB戦の開催、ラグビーワールドカップ2019キャンペーン企画の参加などを行いました。

た。試合に関しましては、鶴鷹祭での勝利こそありませんでしたが、公式戦で勝利を収めることが出来ました。

今後も更なる向上をすべく一層の研鑽を積んでいく所存ですので、引き続き都留文科大学ラグビー部をよろしくお願い致します。



文化会紹介

2018～2019年度文化会 会長 島倉 也実

同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度文化会には30以上の団体が所属しています。その中でも合唱団は「第71回全日本合唱コンクール全国大会」で金賞、日本放送協会賞を受賞し、10年連続金賞で特別表彰されるなど、大変優秀な成績を収めています。これは、団員の努力はもちろん、同窓会の皆様のご支援あってのことだと思います。

その他の所属団体も、精力的に活動しています。音楽系団体の活躍はもちろんですが、PLUS ONE +や、放送部、写真部など、他団体を陰で支えるクラブ・サークルの存在

によって、活動がより充実したものになっています。

私が以前に管弦楽団の定期演奏会の受付を担当した際には、多くのOB・OG

の方にお越しいただき、同窓会の皆様との繋がりを改めて感じました。日頃の文化会の活動へのご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。今後も、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



「邦楽部息吹 活動報告」部長 和田 美里

邦楽部息吹は、毎週火曜と金曜にコミュニケーションホール地下の和室で、箏、三味線、尺八の練習をしています。半数以上が初心者ですが、経験者が初心者に指導したり、外部から先生をお呼びしたりして、和楽器の演奏技術向上に努めています。

今年度は、7月に七夕コンサート、11月に桂川祭での演奏、引退コンサートを行いました。特に七夕コンサートは、予想以上に多くの方に見に来ていただくことができ、大変充実したものになりました。

また、5月には春展で写真部や創作サークルなどとコラボをしたり、10月には尺八パートが外部の演奏会に参加し

たりと、他のサークルや外部との交流も積極的に行っています。

さらに9月には、都留市まちづくり交流センターで、地域の方に向けて和楽器の体験会を行いました。このように、今後は地域の方との交流や、和楽器についてもっと知っていただけるような活動をしていきたいと考えています。



吹奏楽部 元部長 藤原 里恵

私たちは人と人とのつながりを大切にしており、地域の福祉施設や自治会のイベント、演奏会などでの訪問演奏をはじめ、地域の中高校生への楽器指導や合同演奏、またコンクールへの出場、演奏会の開催など、さまざまな活動を行っています。

昨年行われた第58回吹奏楽コンクール県大会では金賞を受賞し、県代表として出場した第24回西関東大会でも、金賞



を受賞することができました。惜しくも全国大会への出場は逃してしま

いましたが、コンクールへの出場を通して得たものは私たちにあって、とても価値のあるものとなりました。

訪問演奏は、日ごろからお世話になっている地域の方々に、直接私たちの音楽を届けることができる貴重な機会です。地域の方々から温かいメッセージをいただく度、私たちが日々活動できているのも多くの方々の支えがあってこそだと、自分たちのいる環境のありがたさを感じることができます。

これからも地域とのつながりを大切にし、地域の音楽の発展にも尽力して参ります。



一瞬を創る PLUS ONE+ 代表 村松 皓史



PLUS ONE+ は「一瞬を創る」をモットーに、都留文科大学や地域にて行われる文化的な活動を、音響照明映像という技術的な面からサポートする団体です。一言で説明すると「裏方」として皆様をサポートする団体です。今年度は都留文科大学英文学科様、アカペラサークル様、ダンスサークル様、弾き語りサークル様など数多くの団体や皆様からご支援をいただき活動を行いました。昨

年度と比較して多くの機材の新規導入を行ったことで、よりクオリティの高いサポートが可能となりました。また団体内向け技術講習会も実施し、新入生に限らず上級生も常に新しい技術の習得を心がけています。

今年度も多くの皆様にご支援をいただき活動を行いました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も専門的な技術の習得、安全管理に努め、皆様の一瞬をサポートする団体として活動して参ります。来年度も活動への変わらぬご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



教養学部学校教育学科がスタートして

学校教育学科 学科長 寺川 宏之

平成30年4月に文学部初等教育学科を基礎として教養学部学校教育学科が開設されました。この改組は、中学校理科教員免許課程の開設など、新しい初等教育学科の創造を模索するなか、平成25年3月末に初等教育学科改革案を「都留文科大学の今後の在り方検討委員会」へ提出したところから始まります。その後、特別支援学校教員免許課程の開設準備を進めながら、平成28年1月に学科改革に関する最終案をまとめ、

- (1) 特別支援学校教員免許課程新設への対応
- (2) 小中一貫教育及び義務教育学校への対応
- (3) 中学校理科免許設置のための学科名称の変更
- (4) 都留の21世紀型の教員養成への取り組み

などを、今後10年間の主要な計画として、その実施に向けて動き始めました。そして、特別支援学校教員免許課程が平成29年4月に開設されました。また、小中一貫教育及び、義務教育学校に対応するため、小学校から中学校の教員養成へと方針を転換し、中学校理科・数学教員免許課程の開設とともに、学部・学科名称を「教養学部学校教育学科」と改めました。

学校教育学科は次に挙げるディプロマ・ポリシー（簡易版）を基に設置されています。

実践的指導力の基礎を身につけ、小中連携を見通した教育実践ができる教師、特別なニーズをもつ子どもたちを理解し、子どもたちが協働的に学び合う環境を整え、学びを適切に方向づけることができる教師、今日的課題にも広く関心を持ち、自らの能力を不断に高め、さまざまな資源を有効に活用した教育活動を展開できる教師、地域や人とのつながりを大切にし、子ども、同僚、保護者、地域の人たちとの信頼関係を築き、学校全体で、協働的に仕事を進めるためのコミュニケーション能力を身につけた教師、自らの課題意識に基づいて研究を進める能力を身につけた教師を養成する。その課程を修了した者に卒業を認定し、学位を授与する。

このディプロマ・ポリシーに従う、カリキュラム及びアドミッション・ポリシーを基礎に、学校教育学科は引き続き「都留の21世紀型の教員養成」の実現に向け、グローバル化を視野に入れながら、教科教育の専門家として他者と協働できるグローバリストの育成や、サイモンフレイザー大学（カナダ）をはじめとする国際教師教育プログラムの充実など、今後も不断の改革に取り組み、挑戦していきます。

新生の地域社会学科がスタートしました

地域社会学科 学科長 高田 研

171名の新学科1期生の皆さんをお迎えして、地域社会学科がスタートいたしました。新学科はこれまでの社会学科の蓄積から継承すべきものは残しながら、新しい視座から2年間の議論を重ねて準備してまいりました。そして、学科内を「〇〇コース」「〇〇コース」「〇〇コース」「〇〇コース」の4コースで構成し、それを、新しく6名の先生を迎えた16名の教員で担当しております。（大学HP、地域社会学科、3ポリシー参照）

新学科では「地域的視点と国際的視点の両面から地域課題を的確に捉え、日本や世界の各地でより良い地域の形成に貢献」する人材育成の目標を掲げ、「地域課題を実践的に解決する」実践的な教育を大切にまいります。

既に本年度から“地域的視点”を具現化する取り組みを学生たちと市内で始めておりますので紹介いたします。

【駅を拠点にした地域づくりと学びの場づくり】……………准教授 鈴木 健大

このたび、私のオープンゼミとして、早馬町内会・富士急行株式会社・都留市と連携し、谷村町駅舎を活用した地域づくりのプロジェクトを開始しました。富士急行大月線谷村町駅を地域と大学生との交流・学び・まちづくりの拠点にする試みです。駅に新たな価値を付与し、中心市街地の賑わいづくりを目指しています。

参加学生は1年生を中心に20人。「朝活」と称して1限前に集まっています。12月に駅舎やその周辺を皆で大掃除を行い、地域の子どもの放課後の居場所づくり「ぷらっとはうす」を開始しました。プラットホームに隣接した場所に、気軽に“ぷらっと”立ち寄れる、そんな意味合いが込められています。どうぞ温かくお見守りください。

……………

1期生が2年生に進み、県下の地域調査を行うフィールドワークや地域の問題解決型のプロジェクト研究、文献、数値データの分析など行う基礎実習といったそれぞれの教員の研究スタイルにあったスキルと理論を体験から学ぶアクティブラーニングも始まります。

また、アジア地域の経済、経営を研究している教員の引率により、夏休みに特別講義として1週間程度、タイにおいて文化交流や産業調査を目的としたフィールドワークの実施を検討しております。

それぞれの活動の詳細は、今後、HP地域社会学科のブログに掲載して参りますので、是非ご注目ください。



第25回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時 2019年8月3日（土）午後2時

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

同窓会の事業である「在学生との懇話会」、「模擬面接体験会」等、会員の皆様のご協力で充実したものになってきました。

また、宮城県や東京都の支部独自活動から始まった教授対策学習会等の支援活動も各支部へと拡大しています。今年度も各支部より教授対策学習会の開催内容等が同窓会本部に報告されています。今後もさらに充実させていきたいものです。

大学では学生への支援活動として平成26年4月に、教職支援センターが設立されてから、教員養成に関して資質・能力の向上をめざした体制ができ、教職課程カリキュラム、S A T活動、教育実習、教員免許状更新講習、卒業生への教職支援など様々なサポートを行っています。

○場所 都留文科大学 1号館 401教室

さて、各位の厚いご協力のおかげで、同窓会総会も重ねて今回で25回目となりました。昨年8月に青森県支部が設立され、会員数も平成30年4月1日現在34,441名となり、各界での会員の活動も同窓会報にも見られるように素晴らしいものがあります。

第25回の同窓会総会には、全国から集まっていたく会員の皆様に良い思い出が残せるように、今回は富士五湖の花火大会（8／1～5）が行われる8月上旬の開催となりました。夏の思い出に同窓会総会に参加して昔を語り、夜は打ち上げ花火を見て帰りませんか。できる限り会員同士連絡を取り合い、大勢の参加を心よりお願い申し上げます。一人でも多くの同窓会員が出席して、盛大な総会が開かれることを執行部も大学当局も切に願っております。よろしくお願い致します。

平成29年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部

(単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	4,435,000	0	4,435,000	4,435,000	887人×5,000円=4,435,000円
終 身 会 費	8,870,000	0	8,870,000	8,870,000	887人×10,000円=8,870,000円
繰 越 金	3,846,817	0	3,846,817	3,846,817	平成28年度繰越金
雑 入	60,000		60,000	49,108	理事会・総会懇親会御祝儀、預金利息
収 入 合 計	17,211,817	0	17,211,817	17,200,925	

◆支出の部

(単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	【見込額】 備 考
事 業 費	8,720,000	0	8,720,000	7,545,603	
会 報 発 行 費	2,700,000	150,000	2,850,000	2,830,859	同窓会報第36号（平成29年度発行）
支 部 助 成 金	3,650,000	0	3,650,000	3,600,000	東京 神奈川 山梨 長野 静岡 愛知 720,000円（@120,000円×6支部） 北海道 富山 石川 兵庫 440,000円（@110,000円×4支部） 岩手 宮城 茨城 埼玉 千葉 福井 岐阜 大阪 広島 徳島 1,000,000円（@100,000円×10支部） 山形 群馬 三重 京都 島根 岡山 愛媛 長崎 鹿児島 沖縄 900,000円（@90,000円×10支部） 滋賀 和歌山 鳥取 熊本 宮崎 400,000円（@80,000円×5支部） 奈良 高知 140,000円（@70,000円×2支部）
支部設立準備金	300,000	0	300,000	0	
新 入 学 祝 費	600,000	0	600,000	579,744	平成30年度入学祝 新入生記念品
支部旗作成費	120,000	0	120,000	0	
教員採用試験学習会費	450,000	0	450,000	335,000	宮城 兵庫 山梨 神奈川 千葉 東京 群馬 富山
被災地支援活動費	900,000	△150,000	750,000	200,000	被災地支援金（宮城県、熊本県）
会 議 費	2,800,000	0	2,800,000	2,048,022	
総 会 費	800,000	0	800,000	305,015	
理 事 会 費 等	2,000,000	0	2,000,000	1,743,007	
同 窓 会 本 部 費	2,460,000	0	2,460,000	1,655,025	
事 務 費	150,000	100,000	250,000	239,414	
運 営 費	1,850,000	0	1,850,000	1,165,611	賃金負担金700,000円含む
慶 弔 費	340,000	△100,000	240,000	140,000	入学式・卒業式祝い生花ほか
本部役員活動費	120,000	0	120,000	110,000	平成29年度役員報酬
積 立 金	2,700,000	0	2,700,000	0	
予 備 費	531,817	0	531,817	0	
支 出 合 計	17,211,817	0	17,211,817	11,248,650	

(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)
¥17,200,925 - 11,248,650 = 5,952,275

◎ H29年度 基金積立及び取崩状況

◆財政調整基金積立金額	0円
◆大学創立記念事業基金積立金額	0円
積立金合計額	0円
◆財政調整基金取崩金額	0円
◆大学創立記念事業基金取崩金額	0円
取崩金合計額	0円

H29年度末 基金の内訳	
財政調整基金	5,646,401円
大学創立記念事業基金	24,021,889円
計	29,668,290円

桐井幸雄同窓会副会長 平成30年度秋の叙勲瑞宝双光章受章

平成30年度秋の叙勲において、同窓会副会長の桐井幸雄先生が瑞宝双光章をご受章されました。この輝く栄誉に心よりお慶び申し上げます。長年の桐井先生のご功績が広く認められたことと存じます。今後ますますのご健勝と一層のご活躍を祈念いたします。

栃木県同窓生のみなさん、 栃木県支部を設立しませんか！

平野 見一（昭和54年度 英文学科卒）



栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。今、栃木県の塩谷地区の田舎から、何と同窓会栃木県支部設立の産声が上がっています。

なぜ、どうして、今になって、栃木県支部を設立する必要があるのでしょうか。大学と改めてつながる必要があるのでしょうか。仕事を増やすことにならないのでしょうか。全国47都道府県の中で、支部設立に至っていない7県の中の一つだからでしょうか。関東でただ一つ支部設立に至っていないからでしょうか。それとも…。様々な御意見やお考え、思いがあることでしょう。

栃木県の同窓生のみなさん、県内各地で御活躍のことと思います。平成から新しい時代に移ろうとしている今、そしてこのような時代だからこそ、栃木県支部を設立して、まずは都留の思い出話をしませんか。昨年、数十年振りに大学を訪れました。その発展の見事に驚かされました。そして、あっと言う間に大学時代にタイムスリップして、下宿先に足を運んでいました。あのころは…。胸がちょっと熱くなりました。

同窓会の目的は、「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」とのことです。「会員相互の親睦」を図ることから、無理をせずにゆっくりとスタートしませんか。栃木県の同窓生の支部設立に向けての御理解と御協力を心からお願い申し上げます。微力ながら「運命を使命に、使命を天命に変えて」の気持ちで、「ごじゃっぺ」（いい加減、嘘）なことにならないように、老体に鞭を打って「やってみっぺ」と思っております。

最後になりましたが、我が母校、都留文科大学と都留文科大学同窓会のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたしますとともに、今回の栃木県支部設立に向けてお世話になっております加藤同窓会長、同窓会事務局柴田様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

※栃木県支部設立について興味・関心がある方、御賛同いただける方は、大学同窓会事務局又は平野まで御連絡ください。

平野 見一 【携 帯】090-4662-1944 【メール】hira3ken3@hb.tp1.jp

氏名・住所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXでお願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担でお願いします。

1 ホームページ

(1)ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ

URL: <http://www.tsuru.ac.jp>

(2)ホームページ上に氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード: tbdh2206

(半角英数) ※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail: dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛

TEL 0554-43-4341 内線206

FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありますらご連絡ください。

☆同窓会ブログも平成24年11月から発足しておりますのでご覧ください。

掲載は本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会ブログ]をご参照ください。

都留の町並み（谷村町駅から旧通学路を歩く）



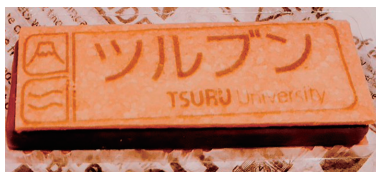
お知らせ

都留文科大学では、平成30年2月に発足された「首都圏都留市会」と連携を模索する中、都留市出身の方が神奈川県と東京都で経営している洋菓子店「パティスリー アノー」と企画を練り、都留文科大学のロゴが入ったお菓子を商品化することになりました。

このオリジナル商品は、学生向けに本学近くのカフェで販売を開始しましたが、今後はオンラインショップなどでの販売も検討しています。

※購入を希望される支部がありましたら、下記の連絡先までお知らせください。

連絡先：都留文科大学 経営企画課 企画広報担当 TEL 0554-43-4341（内線241）



ツルブンカカオサンド（仮）



写真提供：浅川 博氏